

本章の趣旨:

アッラーの大権とその能力の完全性を強調し、かれを畏れ、その懲罰を警告することを勧める。

説明:

①大権を保持されるお方、アッラーに称賛あれ、その善は限りない。かれはすべてのことに万能で、できないことはない。

②死と生を創られたお方。人々よ、それはあなた方の誰が優れた行いをする者なのかを試みるためである。かれは偉力大で、だれもかれを負かすことはできず、僕で悔悟する人は、よく赦してもらえるお方である。

③重なる7つの諸天を創られたお方。それらは少しも接触せず、重ねられる。観察する人々よ、アッラーの創造には、少しのずれや不調和もないことを見るだろう。そして再び目を向けてみよ。あなたは裂け目や欠陥を見るだろうか。そのようなものを見ることはない。見るものと言えば、完璧な熟練の創造だけである。

④さらに何度でも、視線を当てるといい。天空の創造には何の欠陥も見出せずに、目はただ弱々しく疲れて、見る元気もなく戻って来るだけである。

⑤われらは灯明の星で地上に近い最下層の天を飾り、盗聴しようとする悪魔たちに対する石つぶてとし、かれらのために来世に猛火を準備した。

⑥かれらの主を信じない者には、審判の日には、地獄の罰がある。何と悪い行き先か。

⑦かれらが火の中に投げ込まれるとき聞くのは、非常に大きな嫌な音だけだ。それは鍋が沸騰しているような音である。

⑧投げ込まれる人々に対する激しい怒りのために、地獄の火は燃え盛って散り散りにならんばかり。不信仰者の一団がその中に投げ込まれる度に、そこの監視人である天使たちはかれらに、あなた方に現世においてアッラーの懲罰を警告する者はやって来なかったのかと、非難がましく尋ねる。

⑨かれらは言う。そう、確かに一人の警告者がわれわれのところにやって来た。だがわれわれはかれを嘘つきとして、アッラーは何の啓示も下されはならず、あなた方使徒たちは真理から遠く迷い去っていると云った。

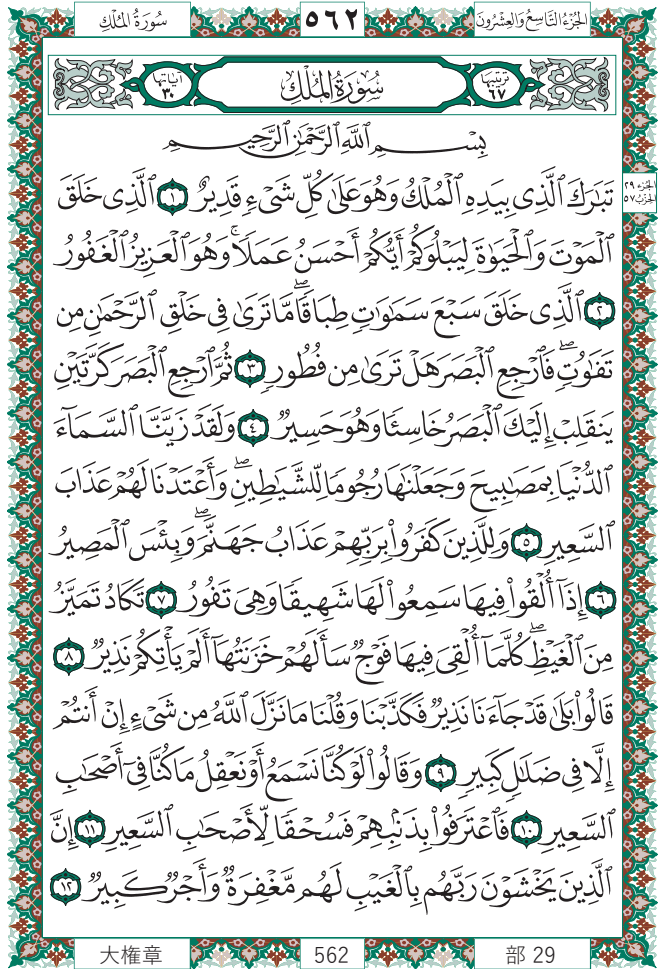
⑩不信仰者たちは言った。われわれがよく聞いていたら受益し、頭を働かせ真実と虚偽を区別していたなら、猛火の住人にはならなかっただろう。いや、われわれは使徒たちを信じ、かれらがもたらしたものを真実と認め、楽園の住人となっていただろう。

⑪こうしてかれらは自分の不信仰と拒否を認めるのだ。猛火に晒しているので、その住人は遠ざけられてしまうがよい。アッラーは不信仰な者の特徴とかれらの報いを述べられてから、次には、信者たちの特徴とかれらの報いを語られる。

⑫まさに目に見えないところで主を畏れる者には、その罪に対する容赦と偉大な報奨がある。それが楽園である。

本諸節の功德:

- 天の創造や生命の創造の知恵が教えるのは、死ぬ前に正しい行動を取るべきだということ。
- 地獄は、至高なるアッラーへの敬いゆえ、不信仰者たちに対して怒り狂う。
- ジンは宇宙の探索において人間に先駆けたが、(やり過ぎて)境界を越えた場合は懲罰を受けることとなる。
- 一人であってもアッラーに帰依し、畏れることは、赦しと楽園に入る原因となる。



وَأَسْرَوْا قَوْلَكُمْ أَوِ اجْهَرُوا بِهِ إِنَّهُ عَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿١٧﴾ أَلَا يَعْلَمُ مَنْ خَلَقَ وَهُوَ اللَّطِيفُ الْخَبِيرُ ﴿١٨﴾ هُوَ الَّذِي جَعَلَ لَكُمُ الْأَرْضَ ذُلُولًا فَامْشُوا فِي مَنَاكِبِهَا وَكُلُوا مِن رِّزْقِهِ وَإِلَيْهِ النُّشُورُ ﴿١٩﴾ أَمْ أَمِنْتُمْ مَّن فِي السَّمَاءِ أَنْ يَخْسِفَ بِكُمُ الْأَرْضَ فَإِذَا هِيَ تَمُورُ ﴿٢٠﴾ أَمْ أَمِنْتُمْ مَّن فِي السَّمَاءِ أَنْ يُرْسِلَ عَلَيْكُمْ حَاصِبًا فَسَتَعْلَمُونَ كَيْفَ نَذِيرِ ﴿٢١﴾ وَلَقَدْ كَذَّبَ الَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ فَكَيْفَ كَانَ نَذِيرِ ﴿٢٢﴾ أَوَلَمْ يَرَوْا إِلَى الطَّيْرِ فَوَقَّهُمْ صَفَّاتٍ وَيَقْبِضْنَ مَا يَمْسُكُهُنَّ إِلَّا أَلْرَّحْمَنُ إِنَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ بَصِيرٌ ﴿٢٣﴾ أَمْ نَظَرْتُم مِّن دُونِ الرَّحْمَنِ إِنِ الْكَافِرُونَ إِلَّا فِي غُرُورٍ ﴿٢٤﴾ أَمْ نَظَرْتُمُ الَّذِي يَرِزُقُكُمْ إِنْ أَمْسَكَ رِزْقَهُ بَل لَّجَوَابِي عُنُوٌّ فَتُؤْمَرُونَ ﴿٢٥﴾ أَمْ نَشِئْتُم مِّكْبَاتٍ عَلَىٰ وَجْهِهِ أَهْدَىٰ أَمَّنْ يَمِشِي سَوِيًّا عَلَىٰ صِرَاطٍ مُّسْتَقِيمٍ ﴿٢٦﴾ قُلْ هُوَ الَّذِي أَنشَأَكُمْ وَجَعَلَ لَكُمُ السَّمْعَ وَالْأَبْصَرَ وَالْأَفْئِدَةَ قَلِيلًا مَّا تَشْكُرُونَ ﴿٢٧﴾ قُلْ هُوَ الَّذِي ذَرَأَكُمْ فِي الْأَرْضِ وَإِلَيْهِ تُحْشَرُونَ ﴿٢٨﴾ وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَذَا الْوَعْدِ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٢٩﴾ قُلْ إِنَّمَا الْعِلْمُ عِنْدَ اللَّهِ وَإِنَّمَا أَنَا نَذِيرٌ مُّبِينٌ ﴿٣٠﴾

- ⑬人々よ、あなた方が言葉を隠しても、またそれを表わしても、至高なるアッラーは、僕の心のうちを知っている。何も隠せないのだ。
- ⑭かれが創造されたのだから、どうして知らない秘密や、秘密よりもっと不明なことがあるものか。かれは、僕について繊細で、かれらの事情を知り尽くしており、かれには何事も隠せないのだ。
- ⑮かれこそは、大地をあなた方のために平坦にさせ、住めるようにされ、その隅々へ往来できるようにされた。だからかれがそこであなた方のために与えられた糧を食べよ。そしてあなた方はかれに召され、清算と応報を受ける。
- ⑯天におられるアッラーが、足の下から大地を割れさせないと安心しているのか。住むのに柔らかくて容易な大地だったのが、カールン(28:76参照)の足元から割れてしまったようにならないと安心しているのか。それは安定していたのに、急に揺れ動くのである。
- ⑰またあなた方は天のアッラーが、ルートの民にされたように、石をあなた方に叩きつけることはないと安心しているのか。やがてあなた方は懲罰をみて、われの警告が当たっていたことを知るだろう。しかし懲罰があつてからだから、あなた方はもう何も得るところはないのだ。
- ⑱確かにあなた方以前の多神教徒たちも、警告を嘘呼ばわりした。それでアッラーの罰が下された。かれらは不信仰と拒否を続けたので、われのかれらに対する拒絶はいかばかりだったことか。それは厳しいものだった。
- ⑲かれらは上空の鳥を見ないのか。時に翼を広げ、また時にそれを畳む。アッラーの他、誰がそれらを空中に維持し、地上に落ちないようにできるのか。真にかれは、すべてを洞察し、誰もかれに何事も隠せないのだ。
- ⑳不信仰者よ、アッラーが懲罰を望まれるならば、あなた方を助ける兵力となるのは、誰もいない。かれらは、妄想しているだけだ。悪魔が騙して、かれらは騙されたのだ。
- ㉑アッラーがもし恵みを止められれば、あなた方に恵むのは誰か。いや、かれらは高慢さと真実を避けることに

固執しているのだ。

- ㉒ 一体全体、顔を伏せて歩く不信仰者と、まっすぐな道の上を正面向いて歩く者と、どちらがよく導かれるのか。
- ㉓ 拒否する多神教徒たちに言ってやるがいい。かれこそがあなた方を創り、あなた方のために聞くための聴覚、見るための視覚、そして理性を働かせるための心を賦与された方だ。何とあなた方は少ししか感謝しないのか。
- ㉔ 拒否する多神教徒たちに言ってやるがいい。かれこそはあなた方を地上に行き渡らせた方であり、何も創造しない偶像がそうしたのではない。復活の日、清算と報いのために、あなた方はかれの御元だけに集められる。偶像の所ではない。アッラーを恐れ、アッラーだけに従うのだ。
- ㉕ かれら不信仰者は、復活についてそれを拒否しつつ言う。ムハンマドよ、あなたとその友人の言葉が真実なら、あなた方が到来するというこの約束は、いつ果たされるのか。
- ㉖ 預言者よ、言ってやるがいい。最後の審判の情報は、アッラーだけにある。それを知るのは、アッラーだけ。わたしはあなた方への明白な警告者に過ぎないのだ。

本諸節の功德:

- 僕が心に隠すことをアッラーはご存知であること。
- 不信仰と背反は、アッラーの懲罰を現世と来世で受ける原因となる。
- アッラーへの不信仰は、暗黒であり、さ迷いだ。教えを信じれば、光と導きである。

فَلَمَّا رَأَوْهُ زُلْفَةً سَيِّئَتْ وُجُوهُ الَّذِينَ كَفَرُوا وَقِيلَ هَذَا الَّذِي كُنْتُمْ بِهِ تَدَّعُونَ ﴿٥٧﴾ قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ أَهْلَكْنِي اللَّهُ وَمَنْ مَعِيَ أَوْ رَحِمَنَا فَمَنْ يُجِيرُ الْكَافِرِينَ مِنْ عَذَابِ أَلِيمٍ ﴿٥٨﴾ قُلْ هُوَ الرَّحْمَنُ ۖ اٰمَنَّا بِهِ وَعَلَيْهِ تَوَكَّلْنَا فَاسْتَعْمُرُوا مَنْ هُوَ فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٥٩﴾ قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ أَصْبَحَ مَاؤُكُمْ غَوْرًا فَمَنْ يَأْتِيكُمْ بِمَاءٍ مَعِينٍ ﴿٦٠﴾

سُورَةُ الْقَلَمِ ﴿٥٨﴾

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ  
 وَالْقَلَمِ وَمَا يَسْطُرُونَ ﴿١﴾ مَا أَنْتَ بِنِعْمَةِ رَبِّكَ بِمَجْنُونٍ ﴿٢﴾ وَإِنَّ لَكَ لَأَجْرًا غَيْرَ مَمْنُونٍ ﴿٣﴾ وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ ﴿٤﴾ فَسَدِّصْ رُءُوسَهُمْ وَيُبْصِرْ ﴿٥﴾ بِأَبْيَعِهِمُ الْمَقْتُولَ ﴿٦﴾ إِنْ رَبَّكَ هُوَ أَعْلَمُ بِمَنْ ضَلَّ عَنْ سَبِيلِهِ ۖ وَهُوَ أَعْلَمُ بِالْمُهْتَدِينَ ﴿٧﴾ فَلَا تَطْعِ الْمُكَذِّبِينَ ﴿٨﴾ وَذُو أَلْوَانٍ مُدْهِنٍ ﴿٩﴾ وَلَا تَطْعِ كُلَّ حَلَا فِي مَهِينٍ ﴿١٠﴾ هَمَّازٍ مَشْأَىٰ بِنَمِيمٍ ﴿١١﴾ مَنَّاعٍ لِلْخَلِيرِ مَعْتَدٍ ﴿١٢﴾ أَيْسَرُ عُتْلٍ بَعْدَ ذَلِكَ زَنِيمٍ ﴿١٣﴾ أَنْ كَانَ ذَا مَالٍ وَبَنِينٍ ﴿١٤﴾ إِذْ أَتَىٰ عَلَىٰ عَيْتِهِ ۖ آيَاتُنَا قَالِ اسْطِيرِ الْأُولِينَ ﴿١٥﴾ سَسِيمُهُ وَعَلَىٰ الْخَرْطُومِ ﴿١٦﴾

27)復活の日、約束が到来して、懲罰を間近に見る時、不信仰者の顔は黒く色が変わる。そしてこれが、あなた方が現世で(見たいと)望んで、急がせていたものだと言われる。

28)使徒よ、これら多神教徒で拒否する人々に、非難して言ってやるがいい。もしアッラーがわたしやわたしと一緒にの信者の命を絶たれても、不信仰者を厳しい罰から救うのは誰か。誰もそうしないのだ。

29)これら多神教徒たちに、預言者よ、言ってやるがいい。かれは慈悲あまねきお方で、かれだけに従うように呼び掛けるのだ。わたしたちはかれを信じ、かれに頼る。やがてあなた方は、明らかな過誤の中にいるのは誰か、そして誰が正しいかを知るだろう。

30)これら多神教徒たちに、預言者よ、言ってやるがいい。もしある朝、あなた方の飲み水が地下に沈んで、もはや届かないなら、湧き出る水をあなた方にもたらすのは、一体誰なのか。アッラーしか、いないではないか。

68. 筆章 (アル・カラム)

マッカ啓示

本章の趣旨:

多神教徒たちの敵対に対するアッラーからの擁護としての、預言者(アッラーの祝福と平安を)の知識とその性格の良さの明示

説明:

1)ヌーン。雌牛章の初めに、このような文字については、説明した。アッラーが筆にかけて、また人々が筆で書いたものにかけて誓う。

2)使徒よ、主の恩寵のお陰で、あなたは気違いではない。多神教徒たちが非難するような狂気は、あなたには無関係だ。

3)いや、あなたには教えを伝達することで、尽きない報奨がある。それによって、あなたは他の人からの報恩を求めるわけではない。

4)そしてあなたは、クルアーンがもたらした立派な徳性を備えている。それを具現しているのだ。

5)やがてあなたは見る、かれらもまた見るだろう、

6)真実が明らかとなる際には、あなたの方の中、気が触れた者は誰かということ。

7)使徒よ、真にあなたの主は、道から迷い去った者を最もよく知っておられ、また導かれている者を最もよく知っておられる。

8)だからあなたは真実を嘘呼ばわりする者に、服従してはならない。

9)かれらは教えについては、あなたの妥協を望み、そうなればかれらもあなたに対しては妥協したいのだ。

10)あなたは、いつも嘘の軽蔑すべき誓いを立てる者にも従ってはならない。

11)中傷し、仲違いのための悪口を言い歩く者、

12)善事を妨げ、財産や尊厳や生命を脅かし、掟に背く罪深い者、

13)頑固で粗野な者、そして素性の卑しい者たちに従わないように。

14)かれらは財産と子息たちがあるので、アッラーの教えに背き、

15)かれ(預言者)にわれらの印が読唱されると、それは昔の作り話だと言う。

16)やがてわれらは、その鼻に烙印を押すだろう。それは付着し、見た目に醜くするだろう。

本諸節の功德:

- 預言者(アッラーの祝福と平安を)は、クルアーンを具現していること。
- 不信仰者たちの特質は非難されるべきもので、信者はそれから遠ざかり、かれらに従うことから遠ざからねばならない。
- 慈悲あまねき方にとって、多く誓約する人は卑しく、またかれの地位は人々の間で低いものになる。

إِنَّا بَلَوْنَهُمْ كَمَا بَلَوْنَا أَصْحَابَ الْجَنَّةِ إِذْ أَقْسَمُوا لَيَصْرُنَّهَا مُصْبِحِينَ ١٧ وَلَا  
 يَسْتَنْوُونَ ١٨ فَطَافَ عَلَيْهَا طَائِفٌ مِّن رَّبِّكَ وَهُمْ نَائِمُونَ ١٩ فَأَصْبَحَتْ  
 كَالصَّرِيرِ ٢٠ فَنَادُوا مُصْبِحِينَ ٢١ أَنِ اغْدُوا عَلَيَّ حَرْثِكُمْ إِنْ كُنْتُمْ  
 صَادِقِينَ ٢٢ فَأَنْظَلُوا وَهُمْ يَتَخَفَتُونَ ٢٣ أَن لَّا يَدْخُلْنَهَا أَيْوَمَ عَلَيْكُمْ  
 مِّنْ سَكِينٍ ٢٤ وَعَدُوا عَلَيَّ حَرْدٍ فَمَرَرِينَ ٢٥ فَلَمَّا رَأَوْهَا قَالُوا إِنَّا لَضَالُونَ  
 ٢٦ بَلْ نَحْنُ مَحْرُومُونَ ٢٧ قَالُوا لَوْ كُنَّا نَسْمَعُ لَوْ لَآ نَسْتَحِينُ ٢٨  
 قَالُوا سُبْحَانَ رَبِّنَا إِنَّا كُنَّا ظَالِمِينَ ٢٩ فَأَقْبَلَ بَعْضُهُمْ عَلَى بَعْضٍ  
 يَتَلَكَّمُونَ ٣٠ قَالُوا يَا بَوِئسَ مَا لَنَا مَبِئسَ رَبِّنَا إِنَّا كُنَّا طَائِفِينَ ٣١ عَسَى رَبِّنَا أَن يَبْدِلَنَا  
 خَيْرًا مِّنْهَا إِنَّا إِلَى رَبِّنَا رَاغِبُونَ ٣٢ كَذَلِكَ الْعَذَابُ وَلَعَذَابُ الْآخِرَةِ  
 أَكْبَرُ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ٣٣ إِنَّ الْمُسْتَقِيمِينَ عِندَ رَبِّهِمْ جَنَّاتُ النَّعِيمِ ٣٤  
 أَفَجَعَلُ الْمُسْلِمِينَ كَالْمُجْرِمِينَ ٣٥ مَا لَكُمْ كَيْفَ تَحْكُمُونَ ٣٦ أَمْ لَكُمْ  
 كِتَابٌ فِيهِ تَدْرُسُونَ ٣٧ إِنْ لَكُمْ فِيهِ لَمَآ تَخَيَّرُونَ ٣٨ أَمْ لَكُمْ آيَاتُنَا  
 بِلُغَةٍ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامَةِ إِنْ لَكُمْ لَمَآ تَحْكُمُونَ ٣٩ سَأَلَهُمْ أَنَّهُمْ بِذَلِكَ  
 زَعِيمٌ ٤٠ أَمْ لَهُمْ شُرَكَاءُ فَلْيَأْتُوا بِشُرَكَائِهِمْ إِنْ كَانُوا صَادِقِينَ ٤١ يَوْمَ  
 يُكْشَفُ عَن سَاقٍ وَيُدْعَوْنَ إِلَى السُّجُودِ فَلَا يَسْتَطِيعُونَ ٤٢

17 われらは、かれら多神教徒たちを早魃と飢餓で試した。それに加えて、われはある果樹園の持ち主を試みた。貧乏人に食べられる前に、かれらが早朝に収穫することを誓った時、  
 18 かれらは、アッラーが御望みならば、という例外を付けなかった。  
 19 それでかれらが眠っている間に、われは火の天罰で果樹園を襲った。かれらは火を防ぐことはできなかった。  
 20 そこで朝には、それは闇夜のように真っ黒になった。  
 21 早朝、所有者たちは互いに叫びあった、  
 22 もし収穫するのなら早く果樹園に急ごうと。  
 23 そこでかれらは小さい声で囁(ささや)き合って、出かけた。  
 24 今日は一人の貧乏人も、果樹園に入らせてはならないぞと言いつつ、  
 25 かれらは誰も収穫物に近づけないと強く心に決めて、朝早く出発した。  
 26 だがかれらが焼失した果樹園を見た時、互いに言った。われわれは、そこへ行く道を誤ったようだ。  
 27 いや、本当にわれわれは、貧乏人が食べないようにと決めたので、収穫物を奪われたのだと。  
 28 かれらの中、一番中庸な者が言った。あなた方はアッラーを称え、悔悟するよにと、わたしが言ったはずだ。  
 29 かれらは、われわれは主を讃える、確かにわれわれは貧乏人に食べさせないと決めたりして、不正な者でした、と言った。  
 30 そこでかれらは、互いに悔しがりながら、責め合った。  
 31 かれらは言った。ああ嘆かわしい、われわれは本当に貧乏人に与えないなど、掟破りをしてしまった、  
 32 主はこの代わりに、もっと良いものを与えられるかもしれない。われわれは、望みを持って主に向かう。  
 33 このように、われは従わないものを罰する。だが来世の苦痛はさらに大きなもので、その厳しさと永久性が、かれらに分っていればいいのだが。  
 34 確かにアッラーを畏れ、命令に従い禁止事項を守る者には、主のところに安楽の楽園がある。そこで永久に豪華な生活をする。

筆章 565 部 29

35 われらは、マッカの多神教徒たちが言うように、信じて従う者たちを、罪人と同じに報いるだろうか。  
 36 多神教徒たちよ、あなた方はどうしたのか、どうしてこのような横暴で曲がった判断をするのか。  
 37 それともあなた方には、学びの啓典があって、信者と不信仰者の別はないとされるのか。  
 38 その書物の中では、あなた方が来世に選択するものが与えられるのか。  
 39 それともあなた方には、あなた方が定めるものは何でも与えられるという、われらの誓約があるのか。  
 40 使徒よ、かれらの誰がそれを保証できるのかと、かれらに問うのだ。  
 41 それともかれらには主と同列に配するもので、かれらを信者と同等の報いを与えるものがあるのか。かれらが言う通りならば、その主と同列に配するものを連れて来させるがよい。  
 42 恐怖が人々を襲い、主の脛(すね)があらわにされる復活の日、人々は服従してひれ伏すように求められ、信者はそうするが、不信仰者と偽信者には、それが出来ない。

本諸節の功德:

- 貧者の権利を妨害することは、資財の破滅の原因となる。
- 悔悟し(主に)戻るよにと、僕がよかれと考えて現世で懲罰を急がれることもある。
- 信者と不信仰者とは、応報も異なるし、またかれらの特質も異なる。

خَشِيعَةً أَبْصَرُهُمْ تَرَهِقَهُمْ دَرَّةً وَقَدَّ كَأَن لُّؤْيِدَعُونَ إِلَى السُّجُودِ وَهُمْ  
 سَلَامُونَ ﴿٤٣﴾ فَذَرْنِي وَمَنْ يُكِدِّبْ بِهَذَا الْحَدِيثِ سَنَسْتَدْرِجُهُمْ  
 مِنْ حَيْثُ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٤٤﴾ وَأَمْ لِي لَهُمْ آيَاتُ يَدَيَّ مَتِينُ ﴿٤٥﴾ أَمْ تَسْتَأْجِرُهُمْ  
 أَجْرًا فَهُمْ مِنْ مَّعْرُومٍ مُتَقَلِّبُونَ ﴿٤٦﴾ أَمْ عِنْدَهُمُ الْغَيْبُ فَهُمْ يَكْتُمُونَ ﴿٤٧﴾  
 فَأَصْبِرْ لِحُكْمِ رَبِّكَ وَلَا تَكُنْ كَصَاحِبِ الْحُوتِ إِذْ نَادَى  
 وَهُوَ مَكْظُومٌ ﴿٤٨﴾ لَوْلَا أَنْ تَدْرِكُهُ نِعْمَةٌ مِنْ رَبِّهِ لَنُبِذَ بِالْعَرَاءِ  
 وَهُوَ مَذْمُومٌ ﴿٤٩﴾ فَاجْتَبِهْ رَبُّهُ وَفَجَعَلَهُ مِنَ الصَّالِحِينَ ﴿٥٠﴾  
 وَإِنْ يَكَادُ الَّذِينَ كَفَرُوا لَيُزْلِقُونَكَ بِأَبْصَرِهِمْ لَمَّا سَمِعُوا  
 الذِّكْرَ وَيَقُولُونَ إِنَّهُ لَمَجْنُونٌ ﴿٥١﴾ وَمَا هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِلْعَالَمِينَ ﴿٥٢﴾

سورة القدر

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْحَاقَّةُ ﴿١﴾ مَا الْحَاقَّةُ ﴿٢﴾ وَمَا أَذْرُكَ مَا الْحَاقَّةُ ﴿٣﴾ كَذَّبَتْ ثَمُودُ وَعَادٌ  
 بِالْقَارِعَةِ ﴿٤﴾ فَأَمَّا ثَمُودُ فَأُهْلِكُوا بِالطَّاغِيَةِ ﴿٥﴾ وَأَمَّا عَادُ فَأُهْلِكُوا بِرِيحِ  
 صَرْصَرٍ عَاتِيَةٍ ﴿٦﴾ سَخَّرَهَا عَلَيْهِمْ سَبْعَ لَيَالٍ وَتَمَنَّى أَنِ بِآيٍ مُسُومٍ ﴿٧﴾ فَوَيْلٌ  
 لِلْقَوْمِ فِيهَا صرعى كَانَهُمْ رَمْيًا فَنجَلَ خَاوِيَةً ﴿٨﴾ فَهَلْ تَرَى لَهُمْ مِنْ بَاقِيَةٍ ﴿٩﴾

69. 不可避な時章(アル・ハーツカ)

マッカ啓示

⑬ かれらは目を伏せ、屈辱と後悔に見舞われるだろう。現世では、アッラーにひれ伏すよう、確かにかれらは呼びかけられていた。他方かれらは、今日直面することからは安全であった。

⑭ 使徒よ、われと、この啓示を虚偽であるとする者を、放っておくのだ。われらはかれらが気づかないところから、企みとして、一步一步罰へと導く。

⑮ しばらくはかれらを、その罪を重ねるために猶予するだろう。実にわれの計画はしっかりしている。かれらは逃られないし、また懲罰から安全ということもない。

⑯ 使徒よ、それともあなたが、その呼び掛けについて、かれらに報酬を求め、かれらは重い負債を背負うことになったのか。それがかれらの反対の原因か。事実はその逆で、あなたは何も褒美など求めてはいない。何が一体かれらを、あなたに従うことから阻むのか。

⑰ または、かれらには幽玄界の知識があり、それでかれらはあなたに対する批判の言葉を書いているのか。

⑱ 使徒よ、忍耐して、あなたの主の裁きの通り、かれらに猶予を与えて、少しずつ破滅へ向かうままにしておけ。自分の民に苛立ち、苦悩の余り叫び声を挙げた、クジラの友ユース(平安を)のようであってはならない。かれが主に叫んだ時には、海の暗黒の中、またクジラの腹の暗黒の中で、すっかり気落ちしていたのだった。

⑲ 主からの恩恵がかれに達しなかったならば、かれはクジラから不毛の地に捨てられて、非難されていただろう。

⑳ しかし主はかれを選び、正しい人々の仲間とされた。

㉑ アッラーを信じず、預言者を拒否する不信仰者は、クルアーンを聞く時、その物凄い眼差しで、あなたを倒れんばかりにする。そしてかれらは、その欲望に従い、真実を受け入れず、それをもたらしたかれは、気違いだと言う。

㉒ だがあなたに下されたこのクルアーンは、すべての人とジンへの警告であり、諭しに他ならない。

本章の趣旨:

クルアーンの正しさを確認し、信仰者には喜びを、嘘つき呼ばわりする者には悲痛を約束しつつ、復活の日の真实性をとく

説明:

- ① アッラーは誰にでも来る、不可避な時について言われる。
- ② その不可避な時とは何か、とその重要性を強調するために問われる。
- ③ 不可避な時が何であるかを、あなたに教えるものは何か。
- ④ サーリフの民であるサムードとアードの民であるアードは、人々を大きな恐怖で襲う最後の日は虚偽であるとした。
- ⑤ それでアッラーはサムードを、最強のそして最も恐ろしい叫び声で滅ぼされた。
- ⑥ またアードを、強烈な冷たい風によって滅ぼされた。
- ⑦ アッラーはその強風を、かれらに対し連続7夜8日にわたり吹き付けられ、全滅させられた。その民が家で倒れて風にたたきつけられているのを、あなたは見るだろう。それは空洞になったナツメヤシの木の幹が地面に倒れたかのような。
- ⑧ あなたは懲罰の後の今、かれらで残っているものを見つけれられるだろうか。

本諸節の功德:

- 忍耐は、伝道者などに必要な祝福された性格である。
- 悔悟はそれ以前のものを一掃する。それはアッラーが僕を選び、正しい信者に仲間入りさせる原因となる。
- 不信仰者と背信者に対して、アッラーが様々な罰を下されるということは、その能力の完璧さと公正さの証である。

وَجَاءَ فِرْعَوْنُ وَمَنْ قَبْلَهُ وَالْمُؤْتَفِكَاتُ بِالْحَاطَّةِ ٩ فَعَصَوْا رَسُولَ  
 رَبِّهِمْ فَأَخَذَهُمْ أَخْذَةً رَابِيَةً ١٠ إِنَّا لَمَطَّاعَا الْمَاءِ حَمَلْنَاكُمْ فِي الْجَارِيَةِ  
 ١١ لِنَجْعَلَهَا لَكُمْ تَذْكَرًا وَنَعْيَهَا أُذُنًا وَعَيْةً ١٢ فَإِذَا نُفِخَ فِي الصُّورِ  
 نَفْحَةً وَاحِدَةً ١٣ وَحَمَلَتِ الْأَرْضُ وَالْجِبَالُ فَدُكَّدَا دَكَّةً وَاحِدَةً ١٤  
 فَيَوْمَئِذٍ وَقَعَتِ الْوَاقِعَةُ ١٥ وَانْشَقَّتِ السَّمَاءُ فَهِيَ يَوْمَئِذٍ وَاهِيَةٌ  
 ١٦ وَالْمَلِكُ عَلَى أَرْجَائِهَا وَيَحْمِلُ عَرْشَ رَبِّكَ فَوْقَهُمْ يَوْمَئِذٍ ثَمَدِيَّةٌ  
 ١٧ يَوْمَئِذٍ تُعْرَضُونَ لَا تَخْفَى مِنْكُمْ خَافِيَةٌ ١٨ فَأَمَّا مَنْ أُوْتِيَ كِتَابَهُ  
 بِيَمِينِهِ ١٩ فَيَقُولُ هَذَا مَا أُرْسِلْتُ فِيهِ وَإِنِّي ظَنَنْتُ أَنِّي مُلْقٍ حِسَابِيَةَ  
 ٢٠ فَهُوَ فِي عِيشَةٍ رَاضِيَةٍ ٢١ فِي جَنَّةٍ عَالِيَةٍ ٢٢ فُطُوهُهَا دَانِيَةً ٢٣  
 كُلُوا وَاشْرَبُوا هَنِيئًا بِمَا أَسْلَفْتُمْ فِي الْأَيَّامِ الْحَالِيَةِ ٢٤ وَأَمَّا مَنْ أُوْتِيَ  
 كِتَابَهُ بِشِمَالِهِ ٢٥ فَيَقُولُ يَا لَيْتَنِي لَمْ أُوتِ كِتَابِيَةَ ٢٦ وَلَمْ أَدْرِمَ حِسَابِيَةَ  
 ٢٧ يَلَيْتَهَا كَانَتِ الْقَاضِيَةَ ٢٨ مَا أَعْنَى عَنِّي مَالِيَةَ ٢٩ هَلَكَ عَنِّي سُلْطَانِيَةَ  
 ٣٠ خُدُّوهُ فَعَلُوهُ ٣١ ثَمَّ الْجَحِيمَ صَلُّوهُ ٣٢ ثَمَّ فِي سَلَاسِلَةٍ ذَرْعُهَا  
 سَبْعُونَ ذِرَاعًا فَاسْلُكُوهُ ٣٣ إِنَّهُ كَانَ لَا يُؤْمِنُ بِاللَّهِ الْعَظِيمِ ٣٤  
 وَلَا يَحْضُ عَلَى طَعَامِ الْمُسْكِينِ ٣٥ فَلَيْسَ لَهُ الْيَوْمَ هَاهُنَا حَمِيمٌ ٣٦

- ⑨ またフィルアウンやかれ以前の者、そして転覆されて罰を受けた諸都市の民、つまりルートの民も、アッラーと同列のものを置いたり、その他の罪を犯していた。  
 ⑩ かれらは主の使徒に背いたので、かれは単にかれらを破壊する以上のものでもってかれらを強く捕獲した。  
 ⑪ 大洪水が襲ったとき、ヌーフ(平安を)はわれらの命令で作った方舟であなた方を運んだ。  
 ⑫ それを不信仰者に関するあなた方への教訓とするためだった。また信者を救い、鋭い耳がそれを聞き留めるためである。  
 ⑬ そこで係の天使が二度目のラッパを一吹きする(一度目は最後の日の初めに吹かれる)と、  
 ⑭ 大地や山々は持ち上げられ、一撃で粉々に碎かれる。  
 ⑮ その日、それが審判の日である。  
 ⑯ またその日、天使たちが降下するので大空は裂け、天は強靱だったのが脆弱になる。  
 ⑰ またその日、天使たちは天の端々におり、8人の天使が、あなたの主の玉座を担っている。  
 ⑱ そしてその日、あなた方全員が審判のためさらされ、何一つとして隠せるものはない。アッラーはすべてをご存じて、ご覧になる。  
 ⑲ それで右手に帳簿を渡される者は喜びに満ちて、言う。ここであなた方はわたしの帳簿を読んでください。  
 ⑳ わたしが善行に努めたのは、復活があることを確信し、その清算があることは、分っていたからだ、と言う。  
 ㉑ こうしてかれは永久の恩寵を賜り、快適な生活に浸り、  
 ㉒ 地点も位階も高い果樹園の中では、  
 ㉓ たわわになった果実がそれを望む人の手近にある。  
 ㉔ あなた方は、過ぎ去った現世にした善行のために何も危害を受けないので、喜んで食べたり飲んだりするように。  
 ㉕ だが左手に帳簿を渡される者は残念そうに言う。ああ、懲罰のある悪行の記した、わたしの帳簿が渡されなければ、いいのに。  
 ㉖ そうすれば、自分の清算を知らずにすんだのに。

- ㉗ ああ、その死が最後で、復活されなければよかったのに。  
 ㉘ 財産は、アッラーの罰に対して、わたしを少しも助けなかったし、  
 ㉙ 権勢や力や威厳といった、わたしが依拠していたものは、消滅してしまった。  
 ㉚ そこでアッラーの命令が天使に下り、かれを捕えて、手を首のところで縛れ、  
 ㉛ それから地獄の火で、熱に苦しませつつ、かれを焼け、と言われる。  
 ㉜ また70腕尺ほどの長さの鎖で、かれを巻け。  
 ㉝ かれは、偉大なアッラーを信じず、  
 ㉞ また貧しい人を養うことを、他の人に勧めなかった。  
 ㉟ それでこの日そこに、かれを助けてくれる親友はない。

## 本諸節の功德:

- 親が受けた恩は子供の恩でもあり、感謝しなければならない。
- 貧者に食を与え、またそれを勧めることは、アッラーの罰から守ってくれる原因となる。
- 審判後の懲罰は本当に厳しいもので、それは信仰と正しい行いをもって自らを防護することを必要とする。

وَلَا طَعَامٌ إِلَّا مِنْ غَسِيلٍ ﴿٣٦﴾ لَا يَأْكُلُهُ إِلَّا الْخَاطِئُونَ ﴿٣٧﴾ فَلَا أَقْسِمُ  
بِمَا تُبْصِرُونَ ﴿٣٨﴾ وَمَا لَا تَبْصِرُونَ ﴿٣٩﴾ إِنَّهُ لَقَوْلُ رَسُولٍ كَرِيمٍ ﴿٤٠﴾ وَمَا هُوَ  
بِقَوْلِ شَاعِرٍ قَلِيلًا مَّا تُوْمَنُونَ ﴿٤١﴾ وَلَا يَقُولُ كَاهِنٌ قَلِيلًا مَّا تَذْكُرُونَ ﴿٤٢﴾  
تَنْزِيلٌ مِنْ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٤٣﴾ وَلَوْ تَقَوَّلَ عَلَيْنَا بَعْضُ الْأَقَاوِيلِ ﴿٤٤﴾  
لَأَخَذْنَا مِنْهُ بِالْيَمِينِ ﴿٤٥﴾ ثُمَّ لَقَطَعْنَا مِنْهُ الْوَتِينَ ﴿٤٦﴾ فَمَا مِنْكُمْ  
مَنْ أَحَدٌ عَنْهُ حَاجِيزٍ ﴿٤٧﴾ وَإِنَّهُ لَتَذْكِرَةٌ لِلْمُتَّقِينَ ﴿٤٨﴾ وَإِنَّا  
لَنَعْلَمُ أَنَّ مِنْكُمْ مُكَذِّبِينَ ﴿٤٩﴾ وَإِنَّهُ لَحَسْرَةٌ عَلَى الْكَافِرِينَ ﴿٥٠﴾  
وَإِنَّهُ لَحَقُّ الْيَقِينِ ﴿٥١﴾ فَسَبِّحْ بِاسْمِ رَبِّكَ الْعَظِيمِ ﴿٥٢﴾

سورة المعارج

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

سَأَلَ سَائِلٌ بِعَذَابٍ وَاقِعٍ ﴿١﴾ لِلَّذِينَ كَفَرُوا لَبِئْسَ لَهُمْ دَارِعٌ ﴿٢﴾  
مِنَ اللَّهِ ذِي الْمَعَارِجِ ﴿٣﴾ تَعْرُجُ الْمَلَائِكَةُ وَالرُّوحُ إِلَيْهِ  
فِي يَوْمٍ كَانَ مِقْدَارُهُ خَمْسِينَ أَلْفَ سَنَةٍ ﴿٤﴾ فَاصْبِرْ صَبْرًا جَمِيلًا ﴿٥﴾  
إِنَّهُمْ يَرَوْنَهُ بَعِيدًا ﴿٦﴾ وَرَأَيْنَهُ قَرِيبًا ﴿٧﴾ يَوْمَ تَكُونُ السَّمَاءُ  
كَالْمُهْلِ ﴿٨﴾ وَتَكُونُ الْجِبَالُ كَالْعِهْنِ ﴿٩﴾ وَلَا يَسْأَلُ حِمِيرٌ حَمِيمًا ﴿١٠﴾

- 36) また、地獄の人々の体からの液体以外には、食べ物はない。
- 37) それを食べるのは、罪人だけ。
- 38) アッラーはあなたが見るものにおいて誓い、
- 39) またあなた方に見えないものにおいて誓う。
- 40) 実にクルアーンはアッラーの言葉であり、高貴な使徒が読み聞かせる。
- 41) 詩の形態をとっていないし、また詩人の言葉ではない。だがあなた方は、少ししか信じていない。
- 42) また、クルアーンとは異なる、古い師の言葉でもない。しかしあなた方は、少ししか気に留めていない。
- 43) これは全創造の主から下された啓示である。
- 44) もし使徒が、**われら**に反して何かの言葉を捏造するなら、
- 45) **われら**は必ずかれを捕え、厳しく罰するだろう。
- 46) かれの頸動脈を必ず切る。
- 47) あなた方の中、誰一人、**われら**からかれを守れない。だからかれが、あなた方のために嘘を捏造することなど、あり得ないのだ。
- 48) 間違いなくこれは、主を畏れる者への諭しである。その命令に従い、禁止事項を守るということである。
- 49) **われら**はあなた方の中に、クルアーンを嘘呼ばわりする者がいることを知っている。
- 50) 真にクルアーンを拒否することは、審判の日に大きな後悔の元になる。
- 51) だがそれは、誠に確かな真実、アッラーからのものであることは、疑いなく、議論も必要ない。
- 52) 使徒よ、だから主にふさわしくないことから否定してかれを称え、絶大なあなたの主の御名を念じよ。

70. 階段章(アル・マアーリジュ)

マッカ啓示

本章の趣旨:

復活の日の不信仰者への罰と信仰者への安寧の確証

説明:

- 1) ある多神教徒が、自分とその人々のために懲罰が下るように祈った。それはかれにとっては冗談だが、現実としては、審判の日に不信仰者にアッラーから下されるべきものである。
- 2) 不信仰者は、それを防ぐことは出来ない。
- 3) 高さ、位階、美德、恩寵の主、アッラーからのものなのだ。
- 4) 天使たちや天使ジブリールは、一日にして**かれ**の元に登る。その一日の長さは、5万年である。
- 5) 使徒よ、だからあなたは、立派に耐え忍ぶのだ。心配なく、不満も言わずに。
- 6) かれらは、懲罰は遠くて、不可能と言うが、
- 7) **われら**は、それが近くて、不可避と言っている。
- 8) 最後の日、天が溶けた銅や金などの金属のようになり、
- 9) 山々は、軽い羊毛のようになり、
- 10) 誰も自分のことで手一杯となり、他人のことを尋ねる親しい人はいない。

本諸節の功德:

- クルアーンは、詩や占いとは峻別される。
- 至高なるアッラーに、偽の言葉を押し付け、捏造することの危険性。
- アッラーが報われる美しい忍耐を持ち、他人に不満を言わないこと。

المؤمنات  
57

١٧ بَصُرُوهُمْ يُؤَدُّ الْمَجْرُمُ لَوْ يَفْتَدِي مِنْ عَذَابٍ يَوْمَئِذٍ بِبَنِيهِ  
 ١٨ وَصَحْبَتِهِ وَأَخِيهِ ١٩ وَفَصِيلَتِهِ الَّتِي تُؤَيِّدُهَا ٢٠ وَمَنْ فِي الْأَرْضِ جَمِيعًا  
 ٢١ ثُمَّ يُنَجِّيهِ ٢٢ كَلَّا إِنَّهَا لَأُظْلَمُ ٢٣ نَزَاعَةٌ لِلشَّوْىِ ٢٤ تَدْعُو مَنْ أَدْبَرَ  
 ٢٥ وَتَوَلَّى ٢٦ وَجَمَعَ فَأَوْعَى ٢٧ إِنَّ الْإِنْسَانَ خُلُقٌ هُوَّاعٌ ٢٨ إِذَا مَسَّهُ الشَّرُّ  
 ٢٩ جَزُوعًا ٣٠ وَإِذَا مَسَّهُ الْخَيْرُ مَنُوعًا ٣١ إِلَّا الْمُصَلِّينَ ٣٢ الَّذِينَ هُمْ  
 ٣٣ عَلَى صَلَاتِهِمْ دَائِمُونَ ٣٤ وَالَّذِينَ فِي أَمْوَالِهِمْ حَقٌّ مَعْلُومٌ ٣٥ لِلسَّائِلِ  
 ٣٦ وَالْمَحْرُومِ ٣٧ وَالَّذِينَ يُصَدِّقُونَ بِيَوْمِ الدِّينِ ٣٨ وَالَّذِينَ هُمْ عَنْ عَذَابٍ  
 ٣٩ رَبِّهِمْ مُشْفِقُونَ ٤٠ إِنَّ عَذَابَ رَبِّهِمْ غَيْرُ مَأْمُونٍ ٤١ وَالَّذِينَ هُمْ  
 ٤٢ لِفُرُوجِهِمْ حَافِظُونَ ٤٣ إِلَّا عَلَىٰ أَزْوَاجِهِمْ أَوْ مَا مَلَكَتْ أَيْمَانُهُمْ  
 ٤٤ فَإِنَّهُمْ غَيْرُ مَلُومِينَ ٤٥ فَمَنْ ابْتَغَىٰ وَرَاءَ ذَلِكَ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الْعَادُونَ ٤٦  
 ٤٧ وَالَّذِينَ هُمْ لِأَمْتِنَتِهِمْ وَعَهْدِهِمْ رِعُونَ ٤٨ وَالَّذِينَ هُمْ بِشَهَادَتِهِمْ قَائِمُونَ  
 ٤٩ وَالَّذِينَ هُمْ عَلَىٰ صَلَاتِهِمْ يُحَافِظُونَ ٥٠ أُولَٰئِكَ فِي جَنَّاتٍ مُّكْرَمُونَ ٥١  
 ٥٢ فَمَالِ الَّذِينَ كَفَرُوا قِبَلَكَ مَهْطَعِينَ ٥٣ عَنِ الْيَمِينِ وَعَنِ الشِّمَالِ  
 ٥٤ عِزِينَ ٥٥ أَطْمَعُ كُلُّ امْرِئٍ مِّنْهُمْ أَنْ يُدْخَلَ جَنَّةَ نَعِيمٍ ٥٦ كَلَّا إِنَّا خَلَقْنَاهُمْ  
 ٥٧ مِّمَّا يَعْمَلُونَ ٥٨ فَلَا أُقْسِمُ بِرَبِّ الْمَشَارِقِ وَالْمَغْرِبِ إِنَّا لَقَادِرُونَ ٥٩

- ① かれらは近親者を目前に見るが、恐ろしさの余り、互いに何も尋ねない。罪人はその日、自分の罪を贖うために、自分の子孫から犠牲を出してもいいと思うくらいだ。
- ② その妻や兄弟たちや、
- ③ かれをかくまった近親を。
- ④ そして自分が助かるなら、地上の人やジンの誰であれ、地獄の火の罰をのがれるために差し出すのだ。
- ⑤ いや、それは断じてまかり通らない。実にあの地獄の火炎は、
- ⑥ 頭の皮を剥ぎ取る。
- ⑦ 真実に背を向けて去っていった者を、呼び返す。信じず、受け入れなかった者たち。
- ⑧ また富を蓄積し、アッラーの道に差し出さなかった者も。
- ⑨ 人間は、強欲に創られている。
- ⑩ 悪いこと、つまり病気や貧困に出会うと、辛抱できずに嘆く。
- ⑪ 良いこと、つまり豊作や富に出会えば、アッラーの道に差し出さない。
- ⑫ だが礼拝する者はそうではなく、非難されるべき特質はない。
- ⑬ いつも礼拝をしている者、かれらは悪から遠く、定時に礼拝する。
- ⑭ また自分の財産には義務として一定の取り分があり、
- ⑮ 物乞いや、乞うことなくとも窮乏する者のために施す。
- ⑯ 審判の日を真実とする者、その日、アッラーは全員に応分に報われる。
- ⑰ またすでに善行を重ねていても、主の罰を恐れる者。
- ⑱ 確かに主の罰から逃れて、安全な者はいない。
- ⑲ また自分の陰部(貞操)を守り、恥ずべき行為を慎む者、
- ⑳ その妻や右手の所有する者(奴隷)だけを求める者の場合は別で、かれらは罪に問われない。
- ㉑ しかし妻や右手の所有する者(奴隷)以外に快楽を求める者は、アッラーの境界を越えた者である。

める者は、アッラーの境界を越えた者である。

- ⑳ 富や秘密などを託されたり、あるいは約束したりした時には、それを守る者。
- ㉑ 証言に当たり正直な者、そこにおいて近親関係や敵対心に左右されない者、
- ㉒ また礼拝の定刻を守り、洗浄し落ちつきかつ、集中して礼拝する者。
- ㉓ これらの者は樂園の中で、栄誉を授かる。永久の恩寵に浴し、アッラーの尊顔を拝するのである。
- ㉔ 使徒よ、不信仰者たちが、今あなたのことをどうして急いで嘘つきよばわりするのか。
- ㉕ 右からまた左から、群になって。
- ㉖ かれらは皆、安楽の樂園に入れられる野望を持っているのか。不信仰でも永遠に贅沢できると考えるのか。
- ㉗ いや、決して出来ない。**われら**は、かれらが知っている卑しい液体から、かれらを創ったのだ。かれらは弱くて、自分に益も害ももたらせないのに、どうして傲慢でいられるのか。
- ㉘ アッラーは、太陽と月の昇る東と西の地点の主にかけて誓う。**われら**は真に能力大である。

本諸節の功德:

- 地獄の火は猛烈で、そこの人々は、現世で知っていた方途によって、何とか逃れようとする。
- 礼拝は現世の悪行を帳消ししてくれる最大の方途、それで来世の火からも守られる。
- アッラーの懲罰に対する恐れは、善行への動機になる。



① かれらをアッラーに従う別の民に代えることや、かれらを破滅させることができるのだ。できない理由はない。そのように交代や破滅を望めば、**われら**が失敗することはないのだ。

② だから使徒よ、あなたは、かれらを虚偽と迷いに浸らせておけば良いのだ。かれらは現世で戯れており、やがてかれらが約束されている復活の日に出会うのだ。

③ かれらが墓から慌ただしく出て来る日。それはまるでかれらが旗印へと大勢で急いでいるようである。

④ かれらは目を伏せ、恥辱を被る。現世において、これがかれらに約束されていたが、留意しなかった、あの日なのである。

## 71. ノーフ章

マッカ啓示

### 本章の趣旨:

ノーフの物語によって、伝道者に忍耐と努力を呼びかけ、信仰者には確固さをもたらし、嘘つきよばわりする者には警告する

### 説明:

① **われら**はノーフをその民に遣わし、かれらの不信仰の行いにより、厳しい罰が下る前に、かれらに警告させた。

② ノーフ(平安を)は言った。わたしの人々よ、わたしはあなた方への明瞭な警告者で、アッラーに何かを同列に配置するという不信仰のために罰があることを伝える。

③ わたしが言わなければならないことは、次の通りである。あなた方はアッラーだけに仕え、**かれ**に何かを並置することなく、**かれ**を畏れてその命令に従い、禁止事項を守るように。定めには、従順であれ。

④ もしそのようにすれば、他の人々の権利を侵さない限り、アッラーはあなた方の罪を赦し、定められた期限まで、その知識によってあなた方を猶予される。あなた方は正しくある限り、地上で繁榮する。しかし死が訪れれば、もう猶予されない。それをあなた方が分っていたなら、多神信仰と迷いから真の信仰と悔悟へと急いだであろう。

⑤ ノーフは言った。主よ、わたしは昼夜を問わず、人々に**あなた**を崇拜し、**あなた**が唯一であることを信じるように呼びかけました。

⑥ だが呼びかけをすればするほど、正道からの逃避を増して、遠ざかるばかり。

⑦ **かれ**があなた方を御赦しになるために、わたしがかれらに呼び掛けると、かれらは自分の指で耳をおさえ衣で顔を被って、多神教を継続する。そしてわたしが呼び掛けることをかたく拒否し、帰依しないで高慢になる。

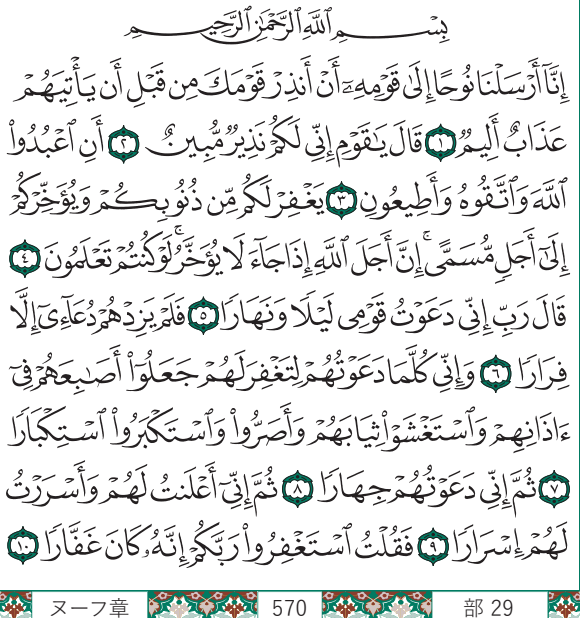
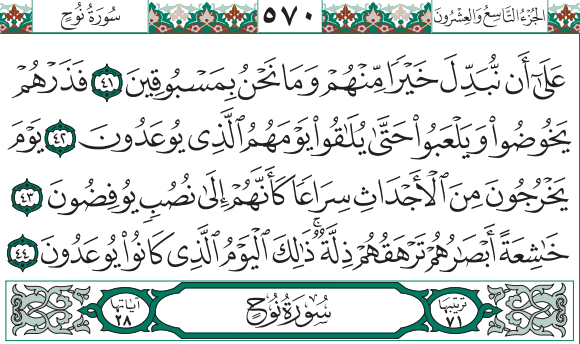
⑧ そこで主よ、わたしは声を大きくしてかれらに呼びかけました。

⑨ 時には大声で公然と、また時には密かに低い声で、手を変え、品を変えて行いました。

⑩ わたしは言いました。あなた方の主の御赦しを、悔悟することで願うのだ。至高なる**かれ**は、悔悟する者の罪はよく御赦しになる。

### 本諸節の功德:

- 来世を失念する危険性について。
- アッラーを崇拜し畏怖することは、罪を赦してもらえる理由となる。
- 唱道を継続し、その手法を様々にすることは、伝道師の責務である。



يُرْسِلُ السَّمَاءَ عَلَيْكُمْ مِدْرَارًا ①١ وَنُمَدِّدُكُمْ بِأَمْوَالٍ وَبَنِينَ وَيَجْعَلُ  
 لَكُمْ جَنَّاتٍ وَيَجْعَلُ لَكُمْ أَنْهَدًا ①٢ مَا لَكُمْ لَا تَرْجُونَ لِلَّهِ وَقَارًا ①٣  
 وَقَدْ خَلَقَكُمْ أَطْوَارًا ①٤ أَلَمْ تَرَ وَكَيْفَ خَلَقَ اللَّهُ سَمْعَ سَمَوَاتٍ  
 طَبَاقًا ①٥ وَجَعَلَ الْقَمَرَ فِيهِنَّ نُورًا وَجَعَلَ الشَّمْسُ سِرَاجًا ①٦  
 وَاللَّهُ أَنْتَبَكُمْ مِنَ الْأَرْضِ نَبَاتًا ①٧ ثُمَّ يُعِيدُكُمْ فِيهَا وَيُخْرِجُكُمْ  
 إِخْرَاجًا ①٨ وَاللَّهُ جَعَلَ لَكُمْ الْأَرْضَ بِسَاطًا ①٩ لَتَسْلُكُوا مِنْهَا  
 سُبُلًا فِجَاجًا ②٠ قَالَ نُوحٌ رَبِّ إِنَّهُمْ عَصَوْنِي وَاتَّبَعُوا مِنْ لَدُنِّي ذَهَبًا  
 مَالَهُمْ وَوَلَدَهُمْ إِلَّا خَسَارًا ②١ وَمَكَرُوا مَكْرًا كَبِيرًا ②٢ وَقَالُوا  
 لَا تَذَرْنَنَا الْهَيْكَلُ وَلَا تَذَرْنَا وَدَاوِلَا سُوءَاعَا وَلَا يَغُوثَ وَيَعُوقَ  
 وَنَسْرًا ②٣ وَقَدْ أَضَلُّوا كَثِيرًا وَلَا تَزِدِ الظَّالِمِينَ إِلَّا ضَلَالًا ②٤  
 مِمَّا خَطَبْتَهُمْ أُعْرِفُوا فَأَدْخَلُوا نَارًا فَلَمْ يَجِدُوا لَهُمْ مِنْ دُونِ  
 اللَّهِ أَنْصَارًا ②٥ وَقَالَ نُوحٌ رَبِّ لَا تَذَرْنَا عَلَى الْأَرْضِ مِنَ الْكَافِرِينَ  
 دِيَارًا ②٦ إِنَّكَ إِن تَذَرُهُمْ يُضِلُّوا عِبَادَكَ وَلَا يَلِدُوا إِلَّا فَاجِرًا  
 كَفَّارًا ②٧ رَبِّ اغْفِرْ لِي وَلِوَالِدَيَّ وَلِمَنْ دَخَلَ بَيْتِي مُؤْمِنًا  
 وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ وَلَا تَزِدِ الظَّالِمِينَ إِلَّا تَبَارًا ②٨

①① そうするとアッラーは、あなた方が必要な時に次々と雨を降らせるので、飢饉の恐れはない。

①② あなた方の財産や子女を増やし、またあなた方のために、幾多の果樹園や河川を設け、穀物や家畜に水を与えられる。

①③ あなた方はどうしたのか、アッラーの偉大さを畏れないとは。留意しないで、背反するののか？

①④ **かれ**は実際順序よく段階を追って、あなた方を創られた。精液、凝血、そして肉塊と。

①⑤ あなた方は、どうやってアッラーが7天を1層また1層と、創られたかを考えてみないのか。

①⑥ また月を天の一番下の地上近くで人々の明りとされ、太陽を灯明とされたかを。

①⑦ アッラーはあなた方の祖先であるアダムを土から創り、あなた方は育つ植物から滋養を取り、

①⑧ それから死後に、大地に戻され、そしてまた復活で起き上らせられる。

①⑨ アッラーはあなた方がそこに住むために、大地を広げられた。

②⑩ あなた方が許されるものを獲得するために、広い大道を辿れることを望んで。

②⑪ **ヌーフ**は言った。主よ、わたしの民はわたしに背いて、あなたが唯一であり唯一の崇拝の対象であることを認めません。下層の者は、財産と子女の豊かに恵まれた指導者たちに従うが、つまりそれらの恵みは指導者たちの迷いを増大させただけです。

②② そして指導者たちはヌーフに下層の者をけしかけて、大変邪悪な企みをしました。

②③ かれらは言いました。あなた方は自分たちの神々である偶像を捨てるな。ワッドもスワーウも、またヤグースもヤウークもナスルも、捨ててはならない。

②④ かれらは既に多くの者を迷わせました。主よ、不信仰と背信で自分に不正な者たちには、真実からの迷いの他には何も与えないで下さい。

②⑤ かれらは様々な罪のために溺れさせられ、また死の直後に地獄の火に送られた。アッラーの他には、沈没と地獄の火から逃れさせてくれるどんな支援者も得られなかった。

②⑥ **ヌーフ**は、信じる人々を除いては、信者にならないとアッラーに知らされたとき、言った。主よ、不信心な者を誰一人として地上で歩いて、あるいは動き回る住人として残さないで下さい。

②⑦ もし **あなた**がかれらを残されて時間を猶予されるなら、かれらは必ず **あなた**に仕える者を迷わせ、また罪人や恵みに感謝しない強烈な不信心者以外は生まないでしょう。

②⑧ 主よ、わたしの罪を御赦しください。そしてわたしの両親を御赦し下さい。また信者としてわたしの家に入る者、また信仰する男女を御赦し下さい。そして不信仰と背信で自分に不正な者たちには、滅亡と損失の他には何も与えないで下さい。

#### 本諸節の功德:

- 赦しを請うと、雨が多く降り、資財と子弟の豊かさの原因にもなる。
- 立場の上の者たちが立場の下の方の者の迷いの原因ともなることは、あまりに明白だ。
- 罪は現世における破滅の原因、そして来世の懲罰の原因。

## 本章の趣旨:

ジンがクルアーンを信じたことによる、クルアーンがアッラーからの啓示であることの証明と、多神教徒の主張の否定

## 説明:

①使役よ、人々に言え。一団のジンがバトゥン・ナフラで私のクルアーン読誦を聞き、自分たちの民のところに戻って以下のように言った。われわれ(ジン)は、確かに驚くべき読誦を聞いたが、それは明瞭で流暢だった。

②われわれが聞いたものは、信仰と言動において正しい道であり、だからわれわれはそれを信じた。われわれは、主に並べて何もかも配さない。

③われわれの主の栄光と威厳は高くあり、かれは妻を娶(めと)らず、子も持たない。多神教徒たちの言うのに反して。

④イブリースがアッラーに対し、妻や子供があるなどと、途方もないことを話している。

⑤しかしわれわれは、多神教徒たちの人間もジンも、アッラーについて妻や子供がいるなど嘘をつくとは考えていなかった。われわれはそれを信じてしまった。

⑥無明時代には恐ろしい場所に宿泊するとき、ジンに擁護を求めた人々もいた。この谷の馬鹿げた民の悪から守ってほしいと、谷の指導者をお願いした。しかしそれで人々はさらに恐怖心を覚え、ジンたちを恐れるようになった。

⑦あなた方(ジンたち)が考えたように、人間たちも、アッラーは何者も復活させないと考えていた。

⑧われわれ(ジン)は、天の情報に触れようとしたが、それが強力な天使と流星で一杯になっているのを見た。われわれの盗聴を防ぎ、天に近づく者に投げつける灯火で一杯であった。

⑨われわれはそれまでは、天使たちの間で流通する話を聞こうとして、そのために天上に居所を定めていた。それはその話を地上の占い師たちに告げるためだった。しかし事情は変化した。今聞こうとする者は、かれのための燃える炎が待ち構えているのを見るだけである。誰でも近づく者にその炎は放たれ、その人は焼かれて死ぬのだ。

⑩だからわれわれは、この厳しい防備は何事か、分からないでいる。主が地上の者に対して悪を望まれているのか、または、かれらに善を望まれるのか分からない。われわれには天の情報は途絶えているのだ。

⑪われわれジンの仲間たちの中には、アッラーを畏れて正しい者もいるが、そうでなく、不信仰で罪作りな者もいるのだ。様々なタイプであり、種々の欲望に従っている。

⑫だがわれわれに確かなことは、至高なるアッラーを免れることができないのは、かれがわれわれを包囲しておられるから、ということである。

⑬われわれ(ジン)は、正しい道へ案内する導きのクルアーンを聴いて、直ちにそれを信仰した。そして主を信じる者は、報奨で損をして酷い目にあう恐れはなく、また以前の罪に加えられるような罪もないのだ。

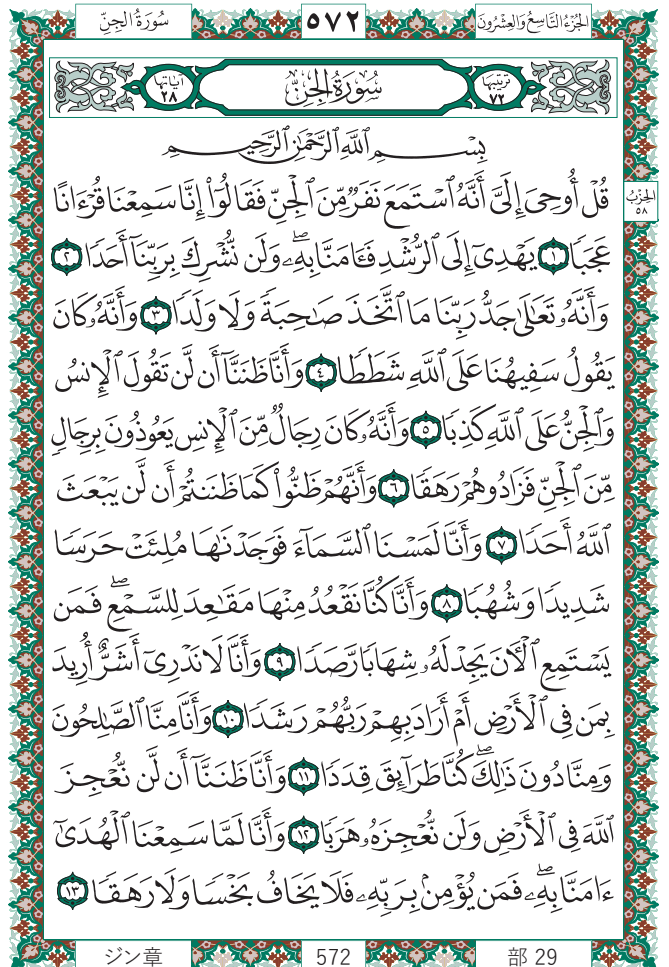
## 本諸節の功德:

●健全な精神でクルアーンを聞く人は、深い効果を見出す。

●ジンに加護を求めることは、アッラーとかれらを同列に配するのと同じこととなる。だからそのように求める人は、現世での意図とは逆に、罰せられることとなる。

●預言者(平安を)が遣わされて、占いは無駄となった。

●信者の良識として、アッラーに悪を結びつけないこと。



وَأَنبَأْنَا الْمُسْلِمُونَ وَمِمَّا الْقَاسِطُونَ فَمَنْ أَسْلَمَ فَأُولَٰئِكَ  
 تَحَرَّوْا رَشَدًا ﴿١٤﴾ وَأَمَّا الْقَاسِطُونَ فَكَانُوا لِجَهَنَّمَ حَطَبًا ﴿١٥﴾  
 وَالْوَالِدَاتُ اللَّائِي عَلَى الطَّرِيقَةِ لَا سَمِيَنَّهُمْ مَاءً عَدَقًا ﴿١٦﴾ لَنُفِتَنَّهُمْ  
 فِيهِ وَمَنْ يُعْرِضْ عَنْ ذِكْرِ رَبِّهِ بِهِ سَلِكُهُ عَذَابًا صَعَدًا ﴿١٧﴾ وَأَنَّ  
 الْمَسْجِدَ لِلَّهِ فَلَا تَدْعُوا مَعَ اللَّهِ أَحَدًا ﴿١٨﴾ وَأَنَّهُ لَمَّا قَامَ عَبْدُ اللَّهِ  
 يَدْعُوهُ كَادُوا يَكُونُونَ عَلَيْهِ لِبَدًا ﴿١٩﴾ قُلْ إِنَّمَا أَدْعُوا رَبِّي وَلَا أُشْرِكُ  
 بِهِ أَحَدًا ﴿٢٠﴾ قُلْ إِنِّي لَا أَمْلِكُ لَكُمْ ضَرًّا وَلَا رَشَدًا ﴿٢١﴾ قُلْ إِنِّي  
 لَنْ يُجِيرَنِي مِنَ اللَّهِ أَحَدٌ وَلَنْ أَجِدَ مِنْ دُونِهِ مُلْتَحَدًا ﴿٢٢﴾ الْإِبِلَاعَا  
 مِّنَ اللَّهِ وَرِسَالَاتِهِ وَمَنْ يَعِصِ اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَإِن لَّهُ نَارُ جَهَنَّمَ  
 خَالِدِينَ فِيهَا أَبَدًا ﴿٢٣﴾ حَتَّىٰ إِذَا رَأَوْا مَائِدَةً فَسَيَعْلَمُونَ  
 مَنْ أَضْعَفُ نَاصِرًا وَأَقَلُّ عَدَدًا ﴿٢٤﴾ قُلْ إِن أَدْرَىٰ أَقْرَبُ مَا تَدْعُونَ  
 أَمْ يَجْعَلُ لَهُ رَبِّي أَمَدًا ﴿٢٥﴾ عَلَيْهِ الْغَيْبُ فَلَا يَظْهَرُ عَلَىٰ غَيْبِهِ  
 أَحَدًا ﴿٢٦﴾ إِلَّا مَنْ أَرْتَضَىٰ مِنْ رَسُولٍ فَإِنَّهُ يَسْأَلُكَ مِنْ بَيْنِ  
 يَدَيْهِ وَمِنْ خَلْفِهِ رَصَدًا ﴿٢٧﴾ لِيَعْلَمَ أَنْ قَدِ ابْتَلَا رُسُلَاتِ  
 رَبِّهِمْ وَأَحَاطَ بِمَا لَدَيْهِمْ وَأَحْصَىٰ كُلَّ شَيْءٍ عَدَدًا ﴿٢٨﴾

14 われわれ(ジン)の中には、アッラーに従うムスリムもあれば、また正道からはずれて背反する者もいる。従い正しい行いをする者は、導きと正道を追い求める。

15 正道からはずれる者は、同様の状態の人間たちと共に地獄の薪となる。

16 啓示されたのは、もし人間やジンが正道の上に確固とし、その実践をするならば、アッラーは必ず豊かな飲み水をかれらに与え、多くの恵みを受けるということである。

17 われらはそれによってかれらを試みる。かれらが多くの恵みに感謝するのか、それともそうでないのか。だがクルアーンとその論しからそれる者は、耐えられない苦痛の道を歩まされることになる。

18 礼拝所は、至高なるアッラーだけのため、そこでアッラーと一緒にして、他の者に祈ってはならない。そうしないと、ユダヤ教会のユダヤ教徒や教会のキリスト教徒のようになってしまう。

19 アッラーの僕ムハンマド(アッラーの祝福と平安あれ)が、かれに祈るためにバトゥン・ナフラで立った時、ジンたちはどっと重なって、よく読誦を聞くために押し寄せた。

20 使徒よ、これら多神教徒に言ってやるがいい。わたしは、わたしの主に祈り、誰であれ、何もかもかれと同位に配さない。

21 言ってやるがいい。わたしには、アッラーが定められた以上、あなた方を害したり、益したりする力はない。

22 言ってやるがいい。もしわたしがアッラーに反すれば、誰もアッラーからわたしを守ることは出来ないし、またかれの他に、避難所を見出すことも出来ない。

23 わたしは、アッラーからわたしに託された御告げを伝えるに過ぎない。それでアッラーとその使徒に従わない者には、地獄の火があり、永遠にその中に住むだろう。そこから出ることは、永久にないのだ。

24 不信仰な者たちは、審判の日になって現世で警告された懲罰を見るのだ。その時、誰に最も頼りない助力があり、また誰が最も少ない助勢を得るかを知る。

25 使徒よ、これら多神教徒と復活を否定する連中に言ってやるがいい。わたしは、あなた方に警告されたことが近いのか、それともアッラーだけが知る猶予期間があるのかを知らない。

26 かれが幽玄界を知っておられ、かれに対して隠せるものはない。その秘密は誰にも明かされない。アッラーだけが知るのだ。

27 かれが気に入った使徒には、望まれるままに知らせる。それでかれはかれの前から、あるいは後から天使たちで護衛して、使徒以外の誰もそれを知ることのないままにするのだ。

28 それはその使徒以前の使徒たちが命じられたように、主の御告げを伝えたかどうかをその使徒が知るためである。天使と使徒はアッラーの知識で包囲され、何も隠すことはできない。また至高なるアッラーはすべてをご存知であり、全ての物事を計算に数え上げるためである。

#### 本諸節の功德:

- 不正は地獄行きの原因である。
- 善い目的を果たすためには、正しくあることが重要である。
- 啓示は悪魔が手を入れることから守られていること。

## 本章の趣旨:

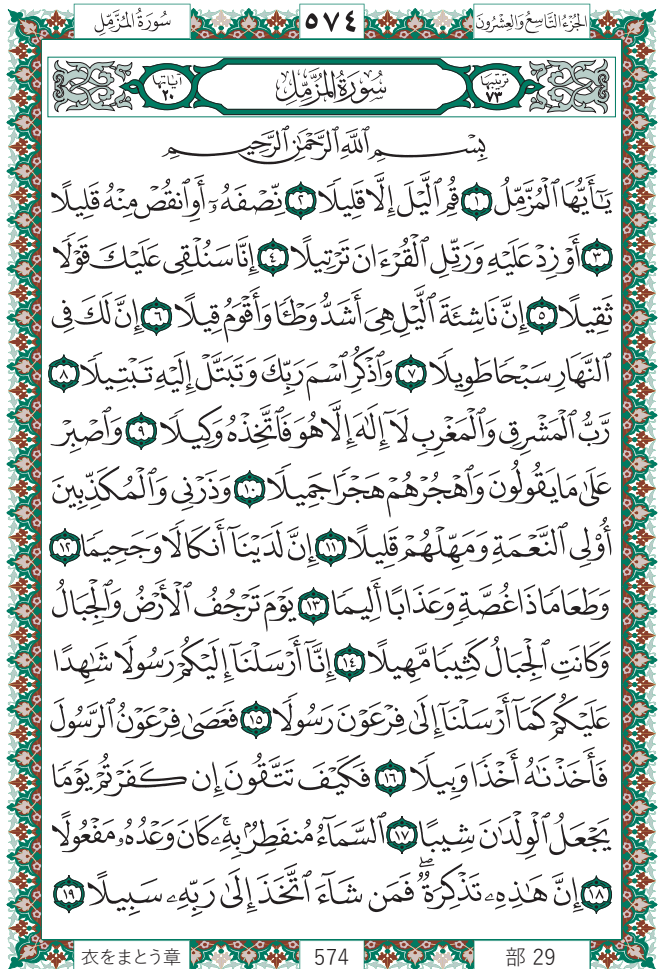
伝道師が出会う困難を乗り越えるための、いくつかの要因の説明

## 説明:

- ① 頭から衣をおおう者(つまり預言者(アッラーの祝福と平安を))よ、  
 ② 夜間中、礼拝せよ、少しを除いて。  
 ③ 夜間の半分、またそれよりも少なく、三分の一ほどは。  
 ④ あるいは、少し多くして、三分の二ほどは。そしてゆっくり明瞭に、クルアーンを読むのだ。  
 ⑤ やがて**われら**は、クルアーンという義務、刑罰、規範、礼儀などを含む、重大な言葉をあなたに下さるだろう。  
 ⑥ 確かに夜間は、読誦に心がより一致し、言葉を正しくする。  
 ⑦ 実際あなたは、昼間は長時間仕事で多忙だから、クルアーンを読誦もできないので、夜に礼拝せよ。  
 ⑧ そこで夜はあなたの主の御名を種々に唱え、**かれ**に至誠を尽くして没頭するのだ。  
 ⑨ 東と西の主、**かれ**の他に神はない。それで**かれ**を、すべてに頼れる保護者とせよ。  
 ⑩ **かれ**ら不信仰者や多神教徒ら現世を享受する者たちが、馬鹿にし、非難するのを耐え忍び、**かれ**らから問題が生じないようにしてうまく避けるのだ。  
 ⑪ そして**われ**に、教えを拒否し現世の享楽を得る者たちを任せて、暫くの間**かれ**らの猶与期限が終わるまで待つがよい。  
 ⑫ **われ**らの元には来世における、重い鎖や燃え盛る炎もある。  
 ⑬ 苦しくて喉につかえる食物や厳しい苦痛もある。  
 ⑭ その懲罰は拒否する人々に与えられ、その日、大地や山々は震動し、そして恐怖のために、山々は崩れて、飛び行く砂になるだろう。  
 ⑮ **われ**らは、あなた方の証人とするために、使徒をあなた方に遣わした。以前にフィルアウンに使徒ムーサー(平安を)を送ったように。  
 ⑯ だがフィルアウンはその使徒に従わなかったので、**われ**らは**かれ**を現世において沈めて、来世では地獄の火に捕らえた。あなた方は、預言者に反対することのないように。そうしないとフィルアウンのようになるのだ。  
 ⑰ もしあなたが依然としてアッラーを否定するなら、あなた方自身をどうやって守れるのか。それは長くて厳しい日だ。子供までが、恐怖のあまり白髪になる日だ。  
 ⑱ その日、恐ろしさの余り天は裂け散るだろう。**かれ**の約束は、間違いなく必ずまっとうされる。  
 ⑲ これは諭して、審判の日の恐怖と厳しさを物語る。信者へのものであり、望む者には主への道を取らせるのだ。

## 本諸節の功德:

- 夜に起きてクルアーンを読み、アッラーを唱え、アッラーへと招く人の忍耐の重要性。
- 夜に心が澄んで、暗記と理解が進むこと。
- 任務の重荷を背負うことには、厳格な教育が必要だ。
- 贅沢で豊満な享楽には、アッラーの道をさえぎるものがある。



۱۰۰ إِنَّ رَبَّكَ يَعْلَمُ أَنَّكَ تَقُومُ أَدْنَىٰ مِن ثُلُثِي اللَّيْلِ وَنُصْفَهُ، وَنُلَيْفَهُ، وَطَائِفَهُ  
 ۱۰۱ مِّنَ الَّذِينَ مَعَكَ وَاللَّهُ يَقْدِرُ اللَّيْلَ وَالنَّهَارَ عِلْمَٰنَ لَّنْ نُّخْصِصُوهُ قِتَابَ  
 ۱۰۲ عَلَيْكُمْ فَأَقْرَأُوا مَا تيسَّرَ مِنَ الْقُرْآنِ عَلِمَٰنَ سَيَكُونُ مِنْكُمْ مَّرْجَىٰ  
 ۱۰۳ وَءَاخِرُونَ يَضْرِبُونَ فِي الْأَرْضِ يَبْتَغُونَ مِن فَضْلِ اللَّهِ وَءَاخِرُونَ  
 ۱۰۴ يُفْتَلُونَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ فَأَقْرَأُوا مَا تيسَّرَ مِنْهُ وَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ وَءَاتُوا  
 ۱۰۵ الزَّكَاةَ وَأَقْرِضُوا اللَّهَ قَرْضًا حَسَنًا وَمَا تُقَدِّمُوا لِأَنفُسِكُمْ مِن خَيْرٍ نُّجِدْهُ  
 ۱۰۶ عِنْدَ اللَّهِ هُوَ خَيْرٌ وَأَعْظَمُ أَجْرًا وَأَسْتَغْفِرُوا لِلَّذِينَ آمَنُوا عِندَ رَبِّهِمْ

سُورَةُ الْمَرْيَمِ  
 ٥٨  
 ٧٤

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

۱ يَتَأْتِيهَا الْمَدْيَنُ ۚ ۲ فَوَاقِذِرْ ۚ ۳ وَرَبِّكَ فَكَبِّرْ ۚ ۴ وَثِيَابَكَ فَطَهِّرْ ۚ ۵  
 ۶ وَالرَّحْرَجَ فَأَهْجُرْ ۚ ۷ وَلَا تَمَنَّا ن تَسْتَكْبِرْ ۚ ۸ وَلِرَبِّكَ فَاصْبِرْ ۚ ۹ فَاِذَا نَفَرَ  
 ۱۰ فِي الْتَافُورِ ۚ ۱۱ فَذَلِكَ يَوْمَئِذٍ يَوْمٌ عَسِيرٌ ۚ ۱۲ عَلَى الْكٰفِرِينَ عَذَابٌ شَدِيدٌ ۚ ۱۳  
 ۱۴ ذَرْنِي وَمَنْ خَلَقْتُ وَحِيدًا ۚ ۱۵ وَجَعَلْتُ لَهُ مَالًا مَّمْدُودًا ۚ ۱۶ وَبَنِينَ  
 ۱۷ شُهُودًا ۚ ۱۸ وَمَهَّدْتُ لَهُ تَمْهِيدًا ۚ ۱۹ ثُمَّ يَطْمَعُ أَن أَزِيدَ ۚ ۲۰ كَلَّا إِنَّهُ  
 ۲۱ كَانَ لِآيَاتِنَا عَمِيًّا ۚ ۲۲ سَأَزْهِقُهُ، صَعُودًا ۚ ۲۳ إِنَّهُ، فَكَّرَ وَقَدَّرَ ۚ ۲۴

⑩使徒よ、主は、時にはあなたが夜間の3分の2近く、または2分の1、または3分の1を、(礼拝に)立つことを知っておられる。またあなたと一諸にいる人々も同様。アッラーは、夜と昼を仕切るが、しかしかれはあなた方がそれを計れないことを知り、従ってあなた方は自分たちに要求されているものを求めてその大半を立てて過ごすことは難しいことも知っている。だからあなた方をアッラーは赦されるのであり、夜は無理のない程度に礼拝せよ。かれは、あなた方の中で病める者もいれば、またある者はアッラーの恩恵を求めて各地を放し、ある者はアッラーの言葉を最高のものにして満悦を得るべく、その道のために戦っていることを知っている。かれらには夜の大半を立てて過ごすことは難しいので、夜は無理のない程度に礼拝せよ。ただし定められた礼拝は、きっちりこなし、定めぬ施しをなし、アッラーの道のために支出するのだ。あなた方は、自分のために行うどのような善いことも、アッラーの御元ではそれがもっと善くなり、もっと大きな報奨になっているのを見出すだろう。あなた方はアッラーの御赦しを請い求めよ。真にアッラーは、悔い改める僕をよく赦されて、かれらには慈悲深いのだ。

74. 包まる者章(アル・ムッダッスィル)

マッカ啓示

本章の趣旨:  
 伝道の命令と、嘘つき呼ばわりする者たちへの警告

- 説明:
- ①衣に包る者(ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)のこと)よ、
  - ②立ち上り、アッラーの懲罰を警告せよ。
  - ③あなたの主の偉大さを、讃えよ。
  - ④そしてあなた自身を罪から清め、その衣を清浄にせよ。

- ⑤偶像崇拜を避けよ。
- ⑥自分の善行が多いと考えて、主に対して貸付を作ったとは考えるな。
- ⑦あなたの主のために、こும்る危害について耐え忍べ。
- ⑧ラッパが二度目に吹かれる時、
- ⑨その日は苦難の日。
- ⑩その日は、アッラーとその使徒を拒否する人々にとり、容易ではない。
- ⑪使徒よ、われとわれが創ったあの一人(頑固な非信者アルワリード・ビン・アルムギーラのこと)は、われに任せるのだ。
- ⑫われは、かれに多くの財産を与え、
- ⑬その近くに息子たちを授け、かれらはかれが豊かなので一緒に集り、かれが旅する時も離れなかった。
- ⑭生活、食料、子弟など、すべてかれにとって、順調になるようにした。
- ⑮それでもかれは、われがもっとたくさん与えるように望む。
- ⑯しかしそうは行かないのだ。かれは、われが預言者に託した印を受け付けなかったのだ。
- ⑰やがてわれは、耐えられないような罰でかれを悩ますのだ。
- ⑱かれはそれほどの恩寵を賜ったのに、クルアーンを否定するための言葉を考え、そして企みをしたのだ。

本諸節の功德:

- 困難は容易さをもたらす。
- 内外の汚れを、清浄にする必要性。
- 掟破りを厚遇することは、破滅へ少しづつ引き入れることであり、それは榮譽を与えているのではない。

فَقَتِلَ كَيْفَ قَدَّرَ ﴿١٩﴾ ثُمَّ قِيلَ كَيْفَ قَدَّرَ ﴿٢٠﴾ ثُمَّ نَظَرَ ﴿٢١﴾ ثُمَّ عَبَسَ وَكَسَرَ ﴿٢٢﴾ ثُمَّ أَدْبَرَ وَاسْتَكْبَرَ ﴿٢٣﴾ فَقَالَ إِن هَذَا إِلَّا سِحْرٌ يُؤْتَرُ ﴿٢٤﴾ إِنْ هَذَا إِلَّا قَوْلُ الْبَشَرِ ﴿٢٥﴾ سَأَصْلِيهِ سَقَرٌ ﴿٢٦﴾ وَمَا أَدْرَاكَ مَا سَقَرٌ ﴿٢٧﴾ لَا تُتَّبَعِي وَلَا تَذَرِي ﴿٢٨﴾ لَوَاحِئُ اللَّبَشِ ﴿٢٩﴾ عَلَيْهَا تِسْعَةَ عَشَرَ ﴿٣٠﴾ وَمَا جَعَلْنَا أَحْسَبَ النَّارِ إِلَّا الْمَلَائِكَةَ وَمَا جَعَلْنَا عِدَّتَهُمْ إِلَّا الْفِتْنَةَ لِلَّذِينَ كَفَرُوا ﴿٣١﴾ لَيْسَتِيقِنَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ وَيَزِدَادِ الَّذِينَ آمَنُوا إِيمَانًا وَلَا يُرْتَابَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ وَالْمُؤْمِنُونَ وَلَيَقُولَ الَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمْ مَرَضٌ وَالْكَافِرُونَ مَاذَا أَرَادَ اللَّهُ بِهَذَا مَثَلًا كَذَلِكَ يُضِلُّ اللَّهُ مَن يَشَاءُ وَيَهْدِي مَن يَشَاءُ وَمَا يَعْلَمُ جُنُودَ رَبِّكَ إِلَّا هُوَ وَمَا هِيَ إِلَّا ذِكْرَى لِلْبَشَرِ ﴿٣٢﴾ كَلَّا وَالْقَمَرِ ﴿٣٣﴾ وَاللَّيْلِ إِذَا أَدْبَرَ ﴿٣٤﴾ وَالصُّبْحِ إِذَا اسْفَرَفَ ﴿٣٥﴾ إِنَّهَا لَإِحْدَى الْكَبَرِ ﴿٣٦﴾ نَذِيرٌ لِلْبَشَرِ ﴿٣٧﴾ لَمَن شَاءَ مِنْكُمْ أَن يَتَقَدَّمَ أَوْ يَتَأَخَّرَ ﴿٣٨﴾ كُلُّ نَفْسٍ بِمَا كَسَبَتْ رَهينَةٌ ﴿٣٩﴾ إِلَّا الْأَصْحَابَ الْيَمِينِ ﴿٤٠﴾ فِي جَنَّتِ يَسَاءَ لُونٌ ﴿٤١﴾ عَنِ الْمُجْرِمِينَ ﴿٤٢﴾ مَا سَلَكَكُمْ فِي سَقَرٍ ﴿٤٣﴾ قَالُوا لَوْلَا نُنَّا مِنَ الْمُصَلِّينَ ﴿٤٤﴾ وَلَوْلَا نُنَّا لَنُطْعِمَ الْمَسْكِينِ ﴿٤٥﴾ وَكُنَّا نَخُوضُ مَعَ الْخَائِضِينَ ﴿٤٦﴾ وَكُنَّا نَكْذِبُ يَوْمَ الدِّينِ ﴿٤٧﴾ حَتَّى أَتَانَا الْيَقِينُ ﴿٤٨﴾

- 19) 呪われて苦しめ。ひどいたくらみだ。
- 20) もう一度言うが、呪われて苦しめ。ひどいたくらみだ。
- 21) その時、かれは再考し、どう言おうかと考えた。
- 22) なにもクルアーンを批判する種がないので、眉をひそめ、苦々しい顔をして、
- 23) それから、信仰から背を向けて、高慢にして、預言者(アッラーの祝福と平安を)に従わなかった。
- 24) かれは、ムハンマドがもたらしたのはアッラーの言葉ではなくて、昔からのただの魔術に過ぎないと言った。
- 25) アッラーではなくて、これは人間の言葉でしかないと言う。
- 26) やがてわれはかれを、サカルの地獄の火で焼くことにしよう。
- 27) そのサカルという地獄の火が何であるかを、あなたに教えるものは何なのか。
- 28) それは罰する者を微塵も残さないが、また戻して微塵にする、そういう調子なのだ。
- 29) 灼熱で皮膚を変わり果てたものにしてしまうのだ。
- 30) その上には19の天使が、監視者としている。
- 31) われらが地獄の火の監視人としたのは、天使たちだけだった。人間にはそれには力がないのだ。その数を選んだのは、不信心の者への試みとして、かれらが言い張ってきたことで罰を倍加するためなのだ。そして律法を下されたユダヤ教徒と福音書を下されたキリスト教徒が、クルアーンがかれらの啓典の内容を確認するものであることを確信するためである。そのことにより、信仰者たちは信仰心を増大させ、かれらと啓典の民が一致して疑わないのに対して、信仰に躊躇しまた不信仰な者たちは、この奇妙な数でアッラーは何を望まれるのかと尋ねるのだ。この数や信仰する者の導きを信じないで拒否する人が迷わせられるように、アッラーは御自分の望みの者を迷わせ、また望みの者を導かれるのだ。そしてかれの他、誰も主の多数の軍勢のことを知らない。地獄の火は、確かに人間に対する諭しであり、至高なるアッラーの偉大さを人を知るためなのだ。
- 32) 多神教徒たちが言うように、監視人に対して、かれを地獄から遠ざけるには、かれの仲間だけで十分だと言うのは、誤っている。そう、アッラーは月に誓った。
- 33) 退こうとする、夜にかけて、
- 34) また輝こうとする、暁にかけて、
- 35) 地獄の火は、大災難だ。
- 36) それは人間への脅威と恐怖の試練である。
- 37) あなた方、人々の中で、アッラーへの信仰と正しい行いによって前に進むことを望む者、あるいはまた、不信仰と罪で、後に残ることを願う者へのものである。
- 38) 人は皆、その行ったことについて、責めを負う。その言動が身を亡ぼすかもしれないし、あるいは破滅から救うことになるかもしれない。
- 39) 信者は別で、罪に問われることはない。その正しい行動のために、それは帳消しにされるのだ。
- 40) 審判の日、かれらは樂園の中において、互いに尋ね合う。
- 41) 罪を犯して、破滅した不信仰者たちに、
- 42) 何があなた方を地獄の火に導いたのかと。
- 43) かれらは言う。われわれは現世において、定時の礼拝を捧げていなかった。
- 44) われわれはまた、貧しい人々に施しをしなかった。
- 45) われわれは妄言の連中と共にいて、導かれず、逸脱の人々と話していた。
- 46) いつも審判の日を否定していた。
- 47) こうして拒否していたが、遂に死が来て、もはや悔い改めることはできなくなった。

**本諸節の功徳:**

- アルワリード・ビン・アルムギーラが、真理が判明してから信仰を離れたような場合の、尊大さの危険性。
- 現世と来世における、人間の負う、言動に対する責任。
- 必要としている人々への食糧の提供がないことは、地獄行きの原因となる。

فَمَا تَنْفَعُهُمْ شَفَعَةُ الشَّافِعِينَ ﴿٤٨﴾ فَمَا لَهُمْ عَنِ التَّذِكْرِ مُعْرِضِينَ ﴿٤٩﴾ كَانَهُمْ حُمُرٌ مُسْتَنْفِرَةٌ ﴿٥٠﴾ فَرَّتْ مِنْ قَسْوَرَةٍ ﴿٥١﴾ بَلْ يَرِيدُ كُلُّ امْرِئٍ مَتَهُمْ أَنْ يُؤْفَىٰ صُحُفًا مُنشَرَةً ﴿٥٢﴾ كَلَّا بَلْ لَا يَخَافُونَ الْآخِرَةَ ﴿٥٣﴾ كَلَّا إِنَّهُ تَذَكُّرَةٌ ﴿٥٤﴾ فَمَنْ شَاءَ ذَكَرْهُ ﴿٥٥﴾ وَمَا يَذْكُرُونَ إِلَّا أَنْ يَشَاءَ اللَّهُ هُوَ أَهْلُ التَّقْوَىٰ وَأَهْلُ الْمَعْفِرَةِ ﴿٥٦﴾

سُورَةُ الْفَاتِحَةِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لَا أُقْسِمُ بِيَوْمِ الْقِيَمَةِ ﴿١﴾ وَلَا أُقْسِمُ بِالتَّقِيسِ اللَّوَامَةِ ﴿٢﴾ أَيَسَّرَ الْإِنْسَانُ أَنْ يَجْمَعَ عِظَامَهُ ﴿٣﴾ بَلَىٰ قَدِيرِينَ عَلَىٰ أَنْ تُسْوِيَ بَنَانَهُ ﴿٤﴾ بَلْ يَرِيدُ الْإِنْسَانُ لِيَفْجُرَ أَمَامَهُ ﴿٥﴾ يَسْئَلُ أَيَّانَ يَوْمُ الْقِيَمَةِ ﴿٦﴾ فَإِذَا بَرِقَ الْبَصْرُ ﴿٧﴾ وَخَسَفَ الْقَمَرُ ﴿٨﴾ وَجُمِعَ الشَّمْسُ وَالْقَمَرُ ﴿٩﴾ يَقُولُ الْإِنْسَانُ يَوْمَئِذٍ أَيْنَ الْمَفْرُجُ ﴿١٠﴾ كَلَّا لَا وَرَرَ ﴿١١﴾ إِلَىٰ رَبِّكَ يَوْمَئِذٍ الْمُسْتَقَرُّ ﴿١٢﴾ يُنَبِّئُ الْإِنْسَانُ يَوْمَئِذٍ بِمَا قَدَّمَ وَأَخَّرَ ﴿١٣﴾ بَلِ الْإِنْسَانُ عَلَىٰ نَفْسِهِ بَصِيرَةٌ ﴿١٤﴾ وَلَوْ أَلْفَىٰ مَعَاذِيرَهُ ﴿١٥﴾ لَا تُحْرِكُ بِهِ لِسَانَكَ لِتَتَّعَجَلَ بِهِ ﴿١٦﴾ إِنْ عَلَيْنَا جَمْعُهُ وَوَفَّعْنَاهُ ﴿١٧﴾ فَإِذَا قَرَأْتَ فَاتِحَ قُرْآنِهِ ﴿١٨﴾ تُرَّانَ عَلَيْنَا بَيَانَهُ ﴿١٩﴾

④8 復活の日、天使、預言者、篤信家などの執り成す者の執り成しも、かれらに役立つことはない。というのは、執り成しには、執り成される者は満悦を持って(アッラーに)受け入れられる必要があるからだ。  
 ④9 一体、これら多神教徒たちが警告から背き去るとは、どうしたのか。  
 ⑤0 かれらは逃亡するロバで、  
 ⑤1 恐怖心でライオンから逃げているようなもの。  
 ⑤2 実はかれらは、それぞれに頭の横で書巻が開かれ、ムハンマドはアッラーの使徒であるということを知らされることを望んでいる。証拠の不在やあるいはその弱さからではなく、かれらの執拗さと傲慢さから、そう望んでいるのである。  
 ⑤3 いや、事態はそうではない。その導かれぬいつかさの原因は、かれらが来世の懲罰を恐れていないことにある。  
 ⑤4 いや、クルアーンは正に警告であり、諭しである。  
 ⑤5 だから誰でもそれを読みたい者は、それを読んで警告され、諭されるのだ。  
 ⑤6 だがアッラーが望まれる者の他は、そのようには学ばないだろう。至高なるかれこそは、その命令に服従し、禁止事項を避けることで、畏れられて然るべきお方で、その僕の罪をよく赦されるお方である。

75. 復活章(アル・キヤーマ)

マッカ啓示

**本章の趣旨:**  
 人間の体を復活して集めるアッラーの力量の強調

**説明:**  
 ① アッラーは、復活の日にかけて誓う。その日、人々はすべての世界の主に向かって立ち上がる。  
 ② また、正しい行為の不足と、悪行をすることを責める善良な精神に誓う。これらに誓って、人々を清算と応報に復活させるのである。

① 人は自分の死の後に、骨を復活のためにアッラーが集めるとは考えないのか。  
 ② 集めるとともに、前にあったようなバランスのままに、その指を復活させるのだ。  
 ③ だが人は復活を否定して、抑制されずに不服従のままで続けたがる。  
 ④ かれは、疑り深そうに、復活の日はいつかと尋ねる。  
 ⑤ 否定していたものが来ると、その時、視界は眩み、驚かされる。  
 ⑥ 月は光を失い、  
 ⑦ 太陽と月は合わせられる。  
 ⑧ その日、罪人はどこに逃げようかと言う。  
 ⑨ いや、その日、決して逃げられず、守られる場所もない。  
 ⑩ あなたの主の御元にしか、その日に戻るところはない。預言者よ、それは清算と応報のためだ。  
 ⑪ その日、人はすでに行ったこと、後にやり残したことについて知らされる。  
 ⑫ いや、人は自分の犯した罪について、自分の四肢が証明するので、自身が明白な証人となる。  
 ⑬ 何も悪いことはしなかったと、たとえいろいろ弁解を並べても、無益だ。  
 ⑭ 使徒よ、アッラーからの啓示がどこかへ行ってしまうようにと、あなたの舌を動かすのに、急いではいけない。  
 ⑮ それをあなたの胸に集め、それを舌で読ませるのは、われらの仕事である。  
 ⑯ それで使徒のあなたにジブリールが読んだ時は、その読誦を注意深く傾聴しなさい。  
 ⑰ それを解き明かすのも、われらの仕事なのである。

**本諸節の功徳:**  
 ● 僕の意思は、アッラーのそれに縛られている。  
 ● 預言者(アッラーの祝福と平安を)は啓示されたクルアーンを記憶しようと懸命になったが、アッラーはそれをかれの胸と記憶の中に集めて、決してそれらを忘れることはないようにされる。



كَلَّا بَلْ تُحِبُّونَ الْعَاجِلَةَ ﴿٣٥﴾ وَتَذَرُونَ الْآخِرَةَ ﴿٣٦﴾ وَوَجْهُ يَوْمَئِذٍ نَاصِرَةٌ ﴿٣٧﴾ إِلَىٰ رَبِّهَا نَاطِرَةٌ ﴿٣٨﴾ وَوَجْهُ يَوْمَئِذٍ بِاسِرَةٍ ﴿٣٩﴾ تَطْنُ أَنْ يَفْعَلَ بِهَا فَاقِرَةٌ ﴿٤٠﴾ كَلَّا إِذَا بَلَغَتِ التَّرَاقِيَ ﴿٤١﴾ وَقِيلَ لَهَا رَاقٍ ﴿٤٢﴾ وَظَنَّ أَنَّهُ الْفِرَاقُ ﴿٤٣﴾ وَالتَّتَفَتِ النَّسَاقُ بِالْإِسْأاقِ ﴿٤٤﴾ إِلَىٰ رَبِّكَ يَوْمَئِذٍ الْمَسَاقُ ﴿٤٥﴾ فَلَا صَدَقَ وَلَا صَلَّىٰ ﴿٤٦﴾ وَلَكِنْ كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰ ﴿٤٧﴾ ثُمَّ أَوَلَىٰ لَكَ أَهْلِهِ يَتَنَطَّقَىٰ ﴿٤٨﴾ أَوَلَىٰ لَكَ فَأْوَئِلُ ﴿٤٩﴾ ثُمَّ أَوَلَىٰ لَكَ فَأْوَئِلُ ﴿٥٠﴾ أَيَحْسَبُ الْإِنْسَانُ أَنْ يُتْرَكَ سُدًى ﴿٥١﴾ أَلَمْ يَكُنْ نَطْفَةً مِنْ مَنِّ يُمْنَىٰ ﴿٥٢﴾ ثُمَّ كَانَ عَاقِلَةً فَخَلَقَ فَسَوَّىٰ ﴿٥٣﴾ فَجَعَلَ مِنْهُ الزَّوْجَيْنِ الذَّكَرَ وَالْأُنثَىٰ ﴿٥٤﴾ أَلَيْسَ ذَلِكَ بِقَدْرِ عَلَىٰ أَنْ يُحْيِيَ الْمَوْتَىٰ ﴿٥٥﴾

سورة الإنسان

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ  
 هَلْ أَتَىٰ عَلَى الْإِنْسَانِ حِينٌ مِنَ الدَّهْرِ لَمْ يَكُنْ شَيْئًا مَذْكُورًا ﴿١﴾ إِنَّا خَلَقْنَا الْإِنْسَانَ مِنْ نُطْفَةٍ أَمْشَاجٍ نَبْتَلِيهِ فَجَعَلْنَاهُ سَمِيعًا بَصِيرًا ﴿٢﴾ إِنَّا هَدَيْنَاهُ السَّبِيلَ إِمَّا شَاكِرًا وَإِمَّا كَفُورًا ﴿٣﴾ إِنَّا أَعْتَدْنَا لِلْكَافِرِينَ سَلَاسِلًا وَأَغْلَالًا وَسَعِيرًا ﴿٤﴾ إِنَّ الْأَبْرَارَ يَشْرَبُونَ مِنْ كَأْسٍ كَانَ مِزَاجُهَا كَافُورًا ﴿٥﴾

- 20 いや、復活は無理というあなた方の主張は間違いだ。そもそも創造ができるのに、死の後から生き返らせられないはずはない。あなた方の主張の理由は、移ろいやすい現世を愛することだ。
- 21 服従という命令を実行することで迎えるべき来世を無視し、禁止された事柄も無視したのだ。
- 22 その日、幸福な信者たちの顔は輝き、
- 23 かれらの主を仰ぎ見て、喜びに溢れる。
- 24 またその日、不信仰で不幸な者たちの顔はしかめ面
- 25 で、
- 26 ひどい災厄と罰が下されることを確信する。
- 26 死んだら罰はないと多神教徒たちが想像するのは異なる。魂が胸の一番上に届く時、
- 27 互いに言うだろう、誰かこの状態を治してはくれないのかと。
- 28 その苦しむ人は、これがこの世との最後の離別の時と悟るだろう。
- 29 現世が終わり、来世が始まるのが同時に来る、この瞬間は困難が重なる。
- 30 その日かれは、主の下に行かせられる。
- 31 かれは預言者のもたらした真実を受け入れず、至高なるアッラーに礼拝も捧げなかった。
- 32 それどころか、真実を否定し、背き去った。
- 33 自慢げに大手を振って、家族のところに帰って行った。
- 34 あなたに復活の日は近く、それからまた近くなると、アッラーは約束した。
- 35 そしてさらに確かめるように言う。「あなたに近くなり、さらに近くなるのだ。」
- 36 人は、放免されると思うのか。
- 37 初めかれは、放出された、一滴の精液ではなかったのか。
- 38 それから一塊の血となり、さらにアッラーが形作り整えられた。
- 39 **かれ**は、人を男と女の両性にされたのだ。
- 40 一滴から凝血にして創造した方に、清算と応報のために死者を復活させる能力がないのか。確かに、**かれ**にはそれが可能なのである。

76. 人間章(アル・インサーン)

マッカ啓示

本章の趣旨:

人間にその創造の原点と意味と将来を想起させ、信者に楽園で何を留意されたかを示す。

説明:

- 1 人間には、存在せず、何とも言われぬ長い時期があったのではないか。
- 2 **われら**は男女の混合された一滴から、課された責務を果たすかどうか試すために人間を創造した。そしてそれを実行するために、聴覚と視覚を与えた。
- 3 そして**われら**は預言者の舌で人間を正しい道に導いたが、同時に誤りの道も明らかにした。その後は、感謝して信仰する僕が正しい道を辿るか、アッラーの印を否定する不信仰の僕となって道を誤るかに分かれた。こうしてアッラーは、二種類の人の別を明らかにして、かれらの受ける報いも明らかにした。
- 4 そして言った。アッラーと預言者に対して不信仰な者には、**われら**は地獄へ引きずり込むための鎖と、鉄の首かせと燃えさかる火を準備した。
- 5 アッラーに従う信者は復活の日には、香りのいい樟脳を混ぜた飲み物が満たされた杯から飲むだろう。

本諸節の功德:

- 現世にこだわる危険性と、来世を忘れることの危うさ。
- 人の選択の確かさは、アッラーの恵みの一つである。
- アッラーの尊顔を拝謁することは、最大の快樂である。

عَيْنَا يَشْرَبُ بِهَا عِبَادَ اللَّهِ يُفَجِّرُونَهَا تَفْجِيرًا ﴿٦٦﴾ يُؤفُونَ بِالنَّذْرِ وَيَخَافُونَ  
يَوْمًا كَانَ شَرُّهُ مُسْتَطِيرًا ﴿٦٧﴾ وَيُطْعَمُونَ أَلْطَعَامَ عَلَىٰ حَيْثُ مَسَكِينَا  
وَيَتِيمَا وَأَسِيرًا ﴿٦٨﴾ إِنَّمَا نَطْعَمُكُمْ لُوجْهِ اللَّهِ لِأَنزِيدُ مِنْكُمْ جَزَاءً وَلَا شُكُورًا  
﴿٦٩﴾ إِنَّا نَخَافُ مِنْ رَبِّنَا يَوْمًا عَبُوسًا قَطَطِيرًا ﴿٧٠﴾ فَوْقَهُمْ اللَّهُ شَرُّ ذَلِكَ  
الْيَوْمِ وَلَقَدْ هَمَّتْ صَرَّةٌ وَسُرُورًا ﴿٧١﴾ وَحَزَنُهُمْ بِمَصَبِرٍ وَاحْتَةٍ وَحَرِيرًا ﴿٧٢﴾  
مُتَّكِئِينَ فِيهَا عَلَى الْأَرَائِكِ لَا يَرُونَ فِيهَا شَمْسًا وَلَا زَمْهَرِيرًا ﴿٧٣﴾  
وَدَانِيَةً عَلَيْهِمْ ظِلَالُهَا وَذُلَّتْ قُطُوفُهَا تَذَلِيلًا ﴿٧٤﴾ وَيُطَافُ عَلَيْهِمْ بِانِيَّةٍ  
مِّن فِضَّةٍ وَأَكْوَابٍ كَانَتْ فَوَارِيرًا ﴿٧٥﴾ فَوَارِيرًا مِّن فِضَّةٍ قَدَّرُوهَا تَقْدِيرًا ﴿٧٦﴾  
وَيُسْقَوْنَ فِيهَا كَأْسًا كَانَ مِزَاجُهَا زَنْجَبِيلًا ﴿٧٧﴾ عَيْنَا فِيهَا تُسَمَّى سَلْسَبِيلًا  
﴿٧٨﴾ وَيُطَوَّفُ عَلَيْهِمْ ولِدَانٌ مُّخْلَدُونَ إِذَا رَأَيْتَهُمْ حَسِبْتَهُمْ لُؤْلُؤًا مَّنشُورًا  
﴿٧٩﴾ وَإِذَا رَأَيْتَهُمْ تَرَرَّيْتَ نَعِيمًا وَمُلُكًا كَبِيرًا ﴿٨٠﴾ عَلَيْهِمْ شِيَابٌ سُنْدُسٍ  
حُضْرٌ وَسَتِيرٌ وَحُلُوعٌ أَسَاوِرٌ مِّن فِضَّةٍ وَسَقَمَهُمْ رَبُّهُمْ شَرَابًا  
طَهُورًا ﴿٨١﴾ إِنَّ هَذَا كَانَ لَكُم جَزَاءً وَكَانَ سَعْيُكُمْ مَّشْكُورًا ﴿٨٢﴾ إِنَّا  
نَحْنُ نَزَّلْنَا عَلَيْكَ الْقُرْآنَ تَنْزِيلًا ﴿٨٣﴾ فَأَصْبِرْ لِحُكْمِ رَبِّكَ وَلَا تَطَّعْ  
مِنْهُمْ ءَاثِمًا ءَاوَكُ فُورًا ﴿٨٤﴾ وَأَذْكُرِ اسْمَ رَبِّكَ بُكْرَةً وَأَصِيلًا ﴿٨٥﴾

作り上げられ、大きすぎず小さすぎず、ちょうどいいサイズである。

①⑦ 生姜を混ぜた酒杯が与えられる。

①⑧ 楽園にはサルサビールと名付けられた泉があり、そこから飲む。

①⑨ また年を取らない少年たちがかれらの間を行き来し、あなたがこの少年を見ると、撒き散らされた真珠かと思うだろう。それは、その顔の初々しさと、美しい肌色、多数いること、そしてそこら中に散らばっていることなどからである。

①⑩ 見回すと、言いようのない豪華さと素晴らしい比べようのない王国を見るだろう。

①⑪ かれらは緑色の絹と錦の服で体を覆い、銀の腕輪で飾られ、主はかれらに清浄な飲物を与えられる。

①⑫ そして言われるのは、実にこれはあなた方に対する報奨である、あなた方の尽力がアッラーによって受け入れられたのだ、という言葉。

①⑬ まさしくこのわれらが、徐々にあなたにクルアーンを下した。すべてを一気に下したのではない。

①⑭ だからあなたの主の命令を、耐え忍んで待つのだ。またかれらの中の罪ある者や、不信仰者の勧誘に従ってはならない。

①⑮ 暁の礼拝、昼、そして日の終わりである夕方に、あなたの主を唱念するように。

#### 本諸節の功德:

- 誓いを守ること、必要な人への施しをすること、仕事の忠実さ、そしてアッラーへの畏怖、これらは、地獄の火から逃れさせ楽園に入れさせる原因である。
- 楽園で仕える少年たちのこういった美しさを思えば、楽園の人々自身は言うに及ばずである。

①⑥ アッラーの僕たちが飲む泉で、それはかれらの望み通り、容易に飲めて、涸れることはない。満足するまで飲み、さらにはそれを望みの所へ流すこともできる。

①⑦ かれらは誓い通り、服従の義務を果たし、他方で災厄の広がる日を恐れる。それは審判の日である。

①⑧ またかれらは、自分たちが必要とし、また食べたいと思う食物を、貧者と孤児と捕虜に与える。

①⑨ かれらは、アッラーの尊顔のためにかれらに喜んで食物を与えるのであって、かれらからは報いも称賛も望まないと、心のなかで言う。

①⑩ われわれは、厳しさと酷さから、悲惨な人々の顔が暗くなる日を恐れる。

①⑪ それでアッラーは、その日の災厄からかれらを守り、その顔には美しさと誉れよりの輝きを、さらには喜悦の心にも与えられる。

①⑫ かれらが忍従し命令に服したので、罪を赦し、かれは豪華な楽園と絹の衣でかれらに報われる。

①⑬ その楽園の中で、寝椅子の上にゆったりと身を伸ばし、太陽の熱射も、肌刺す寒さも覚えぬ。いつも陰にいて、極端な暑さも寒さもない。

①⑭ 木陰はかれらの上を覆い、果実の房は手近く垂れ下っている。簡単にとって、食べられる、そして寝て、座って、あるいは立ったまま、食べることができるのだ。

①⑮ 銀の食器と、飲むと思う時には、光るガラスの杯が小間使いたちによって回される。

①⑯ 杯は透き通ってガラスのようだが、しかしそれは銀で

وَمِنَ اللَّيْلِ فَاسْجُدْ لَهُ وَسَبِّحْهُ لَيْلًا طَوِيلًا ﴿٦٦﴾ إِنَّ هَؤُلَاءِ  
 يُجِبُونَ الْعَاجِلَةَ وَيَذْرُونَ وَرَاءَهُمْ يَوْمًا ثَقِيلًا ﴿٦٧﴾ نَحْنُ خَلَقْنَاهُمْ  
 وَشَدَدْنَا أَسْرَهُمْ وَإِذَا شِئْنَا بَدَلْنَا أَمْثَلَهُمْ تَبْدِيلًا ﴿٦٨﴾ إِنَّ  
 هَذِهِ تَذْكِرَةٌ فَمَنْ شَاءَ اتَّخَذْ إِلَىٰ رَبِّهِ سَبِيلًا ﴿٦٩﴾ وَمَا تَشَاءُونَ  
 إِلَّا أَنْ يَشَاءَ اللَّهُ إِنَّ اللَّهَ كَانَ عَلِيمًا حَكِيمًا ﴿٧٠﴾ يَدْخُلُ  
 مَنْ يَشَاءُ فِي رَحْمَتِهِ وَالظَّالِمِينَ أَعَدَّ لَهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿٧١﴾

سُورَةُ الْمُرْسَلَاتِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالْمُرْسَلَاتِ عُرْفًا ﴿١﴾ فَأَلْصَقَتْ عَصْمًا ﴿٢﴾ وَالنَّشْرَتِ نَشْرًا ﴿٣﴾  
 فَأَلْفَرَقَتْ فَرَقًا ﴿٤﴾ فَأَلْمَقِيَّتِ ذِكْرًا ﴿٥﴾ عَذْرًا أَوْ نَذْرًا ﴿٦﴾ إِنَّمَا  
 تُوعَدُونَ لَوْ قَعَّ ﴿٧﴾ فَإِذَا التُّجُومُ طُمِسَتْ ﴿٨﴾ وَإِذَا السَّمَاءُ فُرِجَتْ ﴿٩﴾  
 وَإِذَا الْجِبَالُ سُيِّفَتْ ﴿١٠﴾ وَإِذَا الرَّسُلُ أُنْقِذَتْ ﴿١١﴾ لِأَيِّ يَوْمٍ أُجِّلَتْ ﴿١٢﴾  
 لِيَوْمِ الْفَصْلِ ﴿١٣﴾ وَمَا أَدْرَاكَ مَا يَوْمُ الْفَصْلِ ﴿١٤﴾ وَيَلَّ يَوْمَئِذٍ  
 لِلْمُكَذِّبِينَ ﴿١٥﴾ أَلَمْ نُهَبِكِ الْأَوَّلِينَ ﴿١٦﴾ ثُمَّ نَبَعُهُمُ الْآخِرِينَ ﴿١٧﴾  
 كَذَلِكَ نَفْعَلُ بِالْمُجْرِمِينَ ﴿١٨﴾ وَيَلَّ يَوْمَئِذٍ لِلْمُكَذِّبِينَ ﴿١٩﴾

②⑥そして夜には、日没時(マグリブ)と夜間時(イシャー)の2回の義務礼拝の中でかれを唱念、さらに自主的な礼拝(タハッジド)をせよ。

②⑦実にこれらの多神教徒たちは、現世を愛しそれに欲をたくましくして、重大な審判の日を背後に捨て去る。それは困難と試練のつらい日である。

②⑧われらがかれらを創り、堅く繋ぎ止めて、力を与えた。われらが欲するならば、かれらと類似の他のもので、おき替えることも出来たのだ。

②⑨確かにこの章は、一つの助言であり、諭しである。だから誰でも望む者には、かれの主への道として、それを取らせよ。

②⑩だがアッラーが御望みにならなければ、あなた方は欲することもできない。アッラーは、すべてを管理される。僕の願望を知り、何を望まないかを知っている。かれはその創造、定め、法規の制定において、賢明である。

③①かれは、御心に適う者をかれの慈悲に浴させ、信じ善行を行うようにされる。また不正と罪悪の人々に対しては、来世での厳しい苦痛、つまり地獄の火を備えられるのである。

77. 送られるもの章(アル・ムルサラート)

マッカ啓示

本章の趣旨:

不信仰者に復活の日のすさまじさの警告を与えること

説明:

①アッラーが誓うのは、次々に送られる風にかけて、それは馬の立て髪のように。

②荒れ狂う風にかけて、

③方々に雨を撒き散らす風にかけて、

④真偽をしっかりと区別するものを持って降りて来る、天使たちにかけて、

⑤啓示をもたらす天使たちにかけて、

⑥アッラーからの警告は、人々にもはや言い訳をさせないという口実でもあるが、懲罰を知らせる警告でもある。

⑦あなた方に約束された復活、清算、そして応報は、間違いなく起る。

⑧その時、星々が消され、

⑨天使たちが降りるので、天が裂け散る時、

⑩山々が崩れて粉碎され、塵屑のようになる時、

⑪使徒たちが集められて、証言の時刻が定められる時、

⑫かれら(使徒たち)が人々に対して証言できるように、この偉大な日は猶予されてきた。

⑬僕の真偽と幸不幸が峻別される日、

⑭使徒よ、峻別の日が何であるかを、あなたに教えるものは何か。

⑮アッラーから使徒たちもたらしたものを拒否した不信仰者は、破滅、懲罰、そして損失を被るのだ。

⑯われらは、アッラーを信じずに使徒たちを拒否した、前代の人々を滅ぼさなかったのか。

⑰その後われらは、後代の者にかれら不信仰者たちを継がせて、また以前のように破滅させる。

⑱このようにわれらは、ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)のもたらすものを拒否する罪人を処分する。

⑲その日、破滅、懲罰、そして損失が、アッラーの懲罰に関する警告を拒否した者たちにある。

本諸節の功德:

- 現世にこだわり、来世を忘れることの危険性。
- 僕の意志はアッラーの意志に従属するものであること。
- 拒否する諸国が滅ぼされるのは、アッラーの慣行である。

أَلَمْ نَخْلُقْكُمْ مِنْ مَّاءٍ مَّهِينٍ ﴿٢٥﴾ فَجَعَلْنَاهُ فِي قَرَارٍ مَكِينٍ ﴿٢٦﴾ إِلَىٰ قَدْرِ مَعْلُومٍ ﴿٢٧﴾ فَقَدَرْنَا فِعْماً الْقَدْرُونَ ﴿٢٨﴾ وَيَلُّ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٢٩﴾ أَلَمْ نَجْعَلِ الْأَرْضَ كَهَاتَا ﴿٣٥﴾ أَحْيَاءَ وَأَمْوَاتًا ﴿٣٦﴾ وَجَعَلْنَا فِيهَا رِوْسَىٰ شَمَخَاتٍ وَأَسْقَيْنَاكُمْ مَّاءً فُرَاتًا ﴿٣٧﴾ وَيَلُّ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٣٨﴾ أَنْطَلِقُوا إِلَىٰ مَا كُنْتُمْ بِهِ تُكَذِّبُونَ ﴿٣٩﴾ أَنْطَلِقُوا إِلَىٰ ظِلِّ ذِي تَلْذِثٍ شَعْبٍ ﴿٤٣﴾ لَا ظَلِيلٍ وَلَا يُغْنِي مِنَ اللَّهَبِ ﴿٤٤﴾ إِنهَا تَرْمِي بِشَرِّ كَالْقَاصِرِ ﴿٤٥﴾ كَأَنَّهُ جِمَالَتٌ صَفْرٌ ﴿٤٦﴾ وَيَلُّ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٤٧﴾ هَذَا يَوْمٌ لَا يَنْطِقُونَ ﴿٤٨﴾ وَلَا يُؤْذَنُ لَهُمْ فَيَعْتَذِرُونَ ﴿٤٩﴾ وَيَلُّ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٥٧﴾ هَذَا يَوْمٌ الْقَفْصِ جَمَعْتَكُمْ وَالْأَوَّلِينَ ﴿٥٨﴾ فَإِنْ كَانَ لَكُمْ كَيْدٌ فَكِيدُوا ﴿٦٤﴾ وَيَلُّ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٦٥﴾ إِنْ الْمُتَّقِينَ فِي ظِلِّ وَعُيُونٍ ﴿٦٩﴾ وَفُوكِهِ مِمَّا بَشْتَهُونَ ﴿٧٠﴾ كُؤُوفٌ أَوْ شَرُوبٌ أَوْ هَنِيئًا بِمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٧٢﴾ إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿٧٤﴾ وَيَلُّ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٧٥﴾ كُؤُوفٌ وَتَمَعُوا قَلِيلًا إِنَّكُمْ فَجْرٌ مُّؤْمِنٌ ﴿٧٦﴾ وَيَلُّ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٧٧﴾ وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ ارْكَعُوا لَا يَرْكَعُونَ ﴿٧٨﴾ وَيَلُّ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ﴿٧٩﴾ فَيَأْتِي حَدِيثٌ بَعْدَهُ يُؤْمِنُونَ ﴿٨٠﴾

②⑤ 人々よ、**われら**はあなた方を少しの卑しい水である精液から創ったのではないか。  
 ②⑥ **われら**はそれを、安全な宿所、女性の子宮に置いた。  
 ②⑦ 定められた妊娠の時期中に。  
 ②⑧ **われら**は赤ん坊の性質、運命、肌色などを、定めた。それらすべてを行う**われら**は、何と善い決定者か。  
 ②⑨ その日、破滅、懲罰、そして損失が、アッラーのお力を嘘であるとした者たちにある。  
 ②⑫ **われら**は、大地を大きな入れ物として、人々全員を包摂しなかったか。  
 ②⑬ 生きた者には住居を与え、繁栄させて、死者の埋葬場所とした。  
 ②⑭ その上に山々を揺ぎなく高く聳(そび)えさせた。人々よ、甘い水をあなた方に飲ませた。それらすべてを創造した者は、それらを復活させることもできるのだ。  
 ②⑮ その日、破滅、懲罰、そして損失が、アッラーの恩恵を嘘であるとした者たちにある。  
 ②⑯ 使徒たちがもたらしたものを拒否してきた連中に言われる。拒否する人びとよ、あなた方が嘘であると言ってきた地獄へ行け。  
 ③⑩ 行け、3つに分かれた地獄の火の煙の下に。  
 ③⑪ それらは冷やされる影にもならず、また燃え盛る炎に対しては無益で、その暑さはあなた方に達するだろう。  
 ③⑫ またそれらは宮殿のような火花を吐き、  
 ③⑬ それらの火花は黒さと規模からして、黒々としたラクダのようだ。  
 ③⑭ その日、破滅、懲罰、そして損失が、この日の知らせを嘘であるとした者たちにある。  
 ③⑮ それは話しも出来ない日であり、  
 ③⑯ また不信仰と悪行の申し開きも、かれらに許されない。  
 ③⑰ その日、破滅、懲罰、そして損失が、この日の知らせを嘘であるとした者たちにある。  
 ③⑱ それは峻別の日であり、**われら**はあなた方とそれ以前の者たちを平らな場所に全員集める。  
 ③⑳ あなた方に何か救命の策があるのなら、それを試みてみる。

④⑩ その日、破滅、懲罰、そして損失が、峻別の日を嘘であるとした者たちにある。  
 ④⑪ しかし命令には服して、禁止は犯さず、主を畏れる者は、間違いなく楽園の涼しい木々の影と甘くて絶えず流れ出す泉の間にいるだろう。  
 ④⑫ かれらが望む、すべての果実もある。  
 ④⑬ 現世での善行に鑑みて、あなた方は、心から良いものを食べて、快適で汚されていない飲料を飲め。それは、あなた方の善い行いに対するものである。  
 ④⑭ このように**われら**は、善行の者たち全員に報いる。  
 ④⑮ その日、破滅、懲罰、そして損失が、アッラーが敬虔な者たちに準備したものを嘘であるとした者たちにある。  
 ④⑯ 拒否する人々に言われる。現世でのうまいものを味わえ。しかしあなた方は、アッラーを信仰しないので、罪人である。使徒たちをも拒否したのだ。  
 ④⑰ その日、破滅、懲罰、そして損失が、審判の日の報いを嘘であるとした者たちにある。  
 ④⑱ かれらは、礼拝をしなさいと言われても、そうしない。 ④⑲ その日、破滅、懲罰、そして損失が、使徒たちがアッラーからもたらしたものを嘘であるとした者たちにある。  
 ⑤⑰ 主からのこのクルアーンを信じないというのであれば、これ以外にどんな言葉をかれらは信じるのか。

本諸節の功德:

- 母親の腹の中でもアッラーの面倒見があること。
- 生きる者には、地上が広く提供されること。死者にも同様である。
- アッラーの印を拒否することの重大性と、それをする者への強い警告。